

2014年3月期決算

# 決算説明会

株式会社 **トクヤマ**

2014年4月30日



# CONTENTS

- 1 2014年3月期 決算
- 2 2015年3月期 業績予想
- 3 ローリング3カ年計画
- 4 補足資料

# 1 2014年3月期 決算

1. 決算概要
2. セグメント別売上高  
／営業利益
3. 営業利益増減分析
4. 全社支出削減の実績

## 1. 決算概要

## 連 結 ( 前 期 比 )

(億円未満切捨て)

(億円)

	2013年 3月期	2014年 3月期	増 減	
			金額	%
売上高	2,586	2,873	+286	+11
営業利益	67	202	+134	+199
経常利益	32	149	+117	+363
当期純損益	△379	102	+481	-
1株当たり当期純損益(円)	△108.98	29.37		
為替(円/\$)	83	100		
国産ナフサ価格 (円/kℓ)	57,500	67,300		

## 定性情報(前期比)

(売上高) 2,873億円(11%増)

増収要因 : セメント及び関連製品の販売数量増、石油化学製品等の販売価格是正、プラントトラブル解消による塩ビモノマーの販売数量増

減収要因 : 多結晶シリコンの販売数量減

(営業利益) 202億円(199%増)

増益要因 : 全社を挙げての費用削減

減益要因 : 国産ナフサ価格の上昇

## 1. 決算概要

## 連 結 ( 前 期 比 )

(億円)

	2013年 3月期	2014年 3月期	増 減	
			金額	%
売上高	2,586	2,873	+286	+11
営業利益	67	202	+134	+199
経常利益	32	149	+117	+363
当期純損益	△379	102	+481	-
1株当たり当期純損益(円)	△108.98	29.37		
為替(円/\$)	83	100		
国産ナフサ価格 (円/kℓ)	57,500	67,300		

定性情報(前期比)

(経常利益) 149億円(363%増)

増益要因 : 休止部門費の減少

減益要因 : 劣後ローンによる資金調達に伴う借入関連費用の発生

(当期純利益) 102億円(黒字転換)

増益要因 : 前期に計上した多結晶シリコン製造設備の減損損失及び棚卸資産評価損が当期は発生しなかったことによる特別損益の改善

前期に発生した繰延税金資産の取崩しが当期は発生しなかったこと等による税金費用の減少

# 1. 決算概要

## 連 結（前 期 末 比）

（億円）

	2013年 3月末	2014年 3月末	増 減
総資産	5,182	5,763	+580
自己資本	2,175	2,296	+121
自己資本比率	42.0%	39.9%	△2.1ポイント
有利子負債	1,877	2,407	+530
D/Eレシオ	0.86	1.05	+0.19
ネットD/Eレシオ*	0.59	0.74	+0.15
1株当たり純資産(円)	625.29	660.18	

### 定性情報(前期末比)

\*ネットD/Eレシオ：(有利子負債－現預金・現金同等物・金銭信託)／自己資本

(総資産)

増加項目： マレーシアでの多結晶シリコン製造設備建設による有形固定資産の増加  
劣後ローン調達による有価証券(譲渡性預金)の増加

(自己資本)

増加項目： 利益剰余金の増加、円安による為替換算調整勘定の改善

(有利子負債)

増加項目： 劣後ローン調達による長期借入金の増加

## 2. セグメント別売上高／営業利益 (前期比)

(億円)

	2013年3月期		2014年3月期		増減			
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	%	営業利益	%
化成品	773	4	864	22	+91	+12	+18	+424
特殊品	528	3	524	60	△3	△1	+56	+1457
セメント	699	53	789	66	+90	+13	+13	+25
ライフアメニティー	510	29	570	48	+60	+12	+19	+66
その他	401	26	472	41	+71	+18	+15	+59
計	2,913	116	3,222	240	+309	+11	+123	+105
セグメント間消去・ 全社費用	△326	△49	△349	△37	△22	—	+11	—
連結決算	2,586	67	2,873	202	+286	+11	+134	+199

(注1) 各事業セグメントの売上高・営業利益にはセグメント間取引を含む

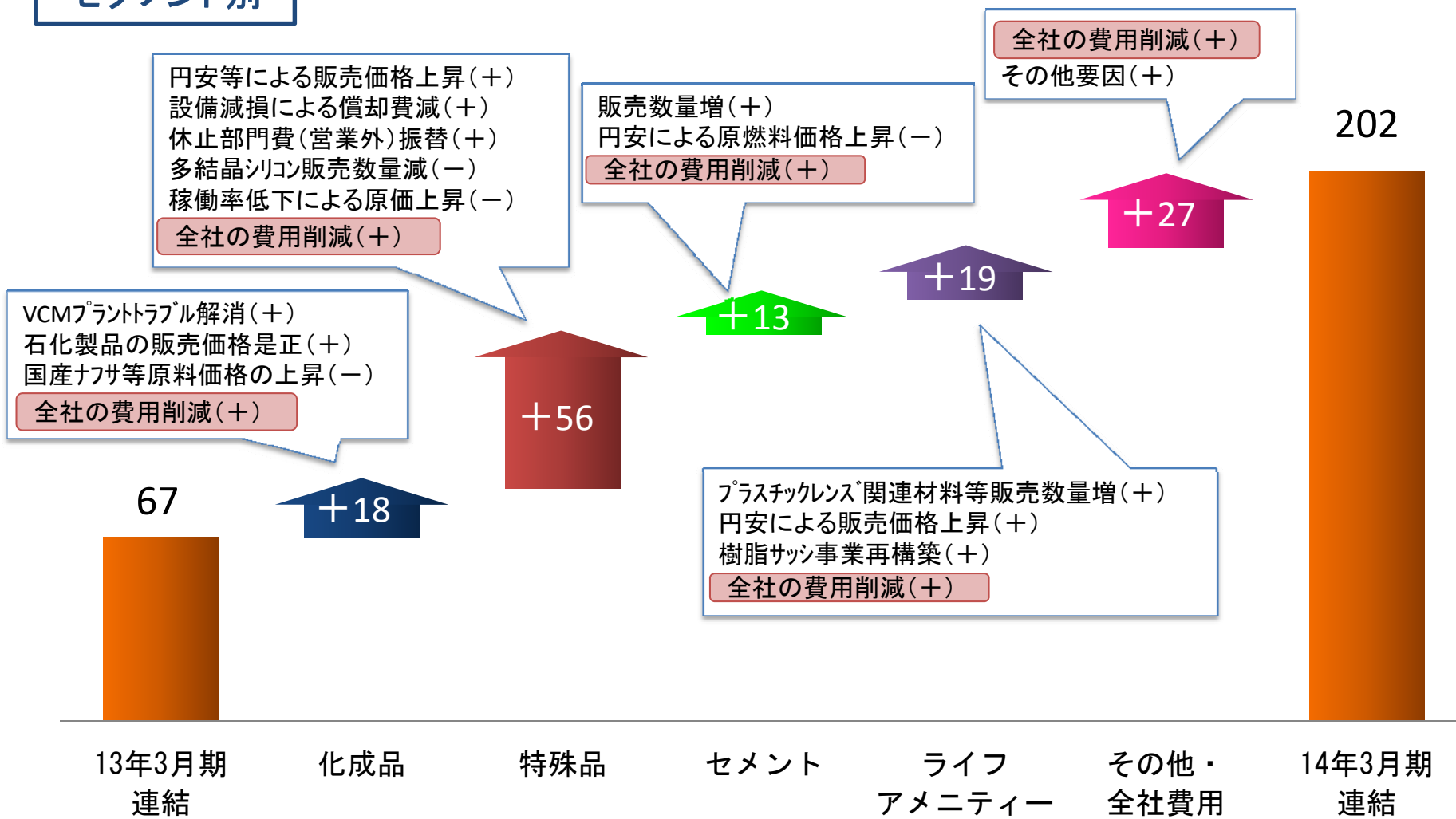
(注2) 2014年3月期より、機能部材セグメントは、ライフアメニティーセグメントに名称変更している

(注3) 2014年3月期より、各セグメントへの費用負担の方法を変更している。なお、2013年3月期においても、変更後の数値としている

# 3. 営業利益増減分析

( 前 期 比 ) (億円)

## セグメント別



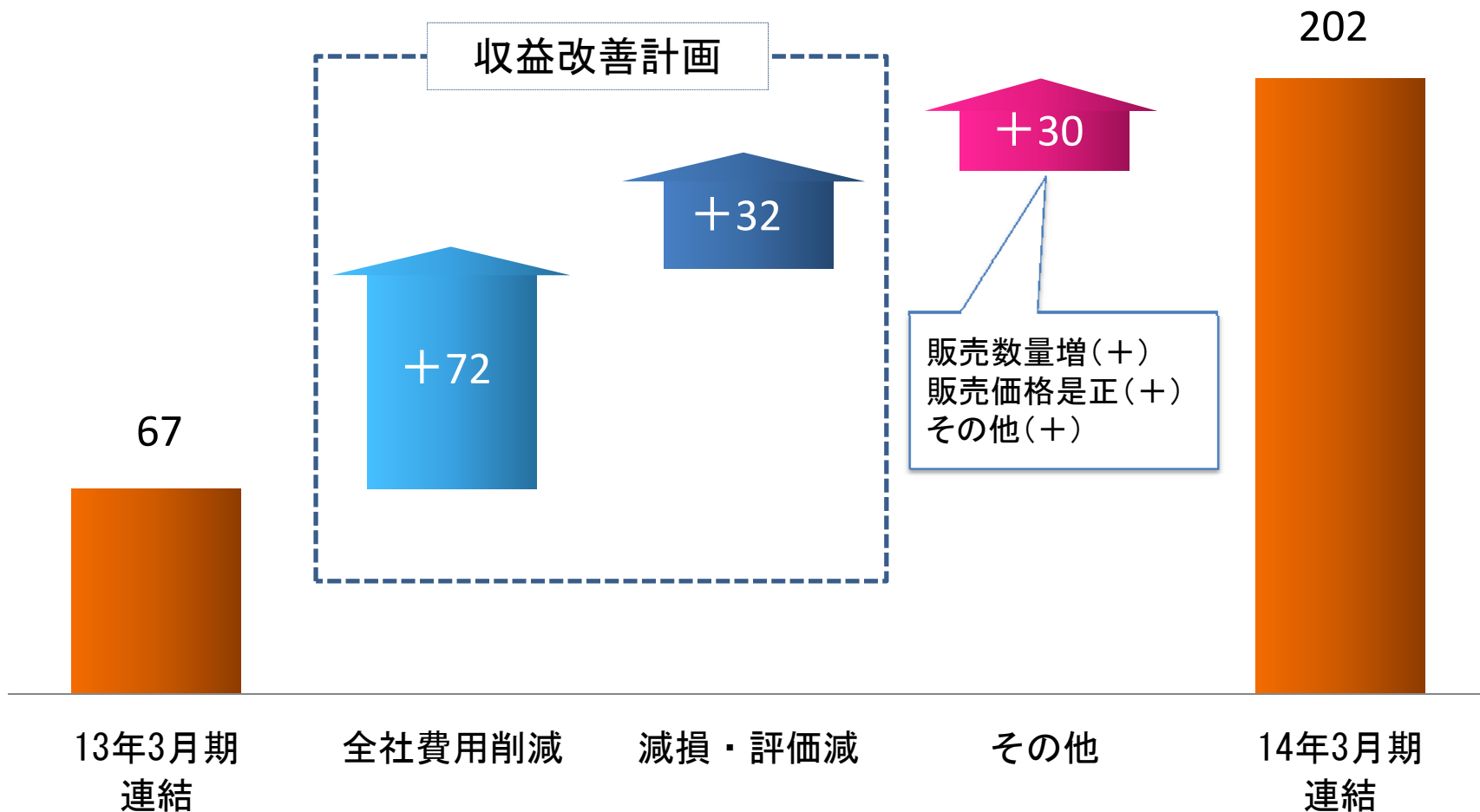


# 3. 営業利益増減分析

( 前 期 比 )

(億円)

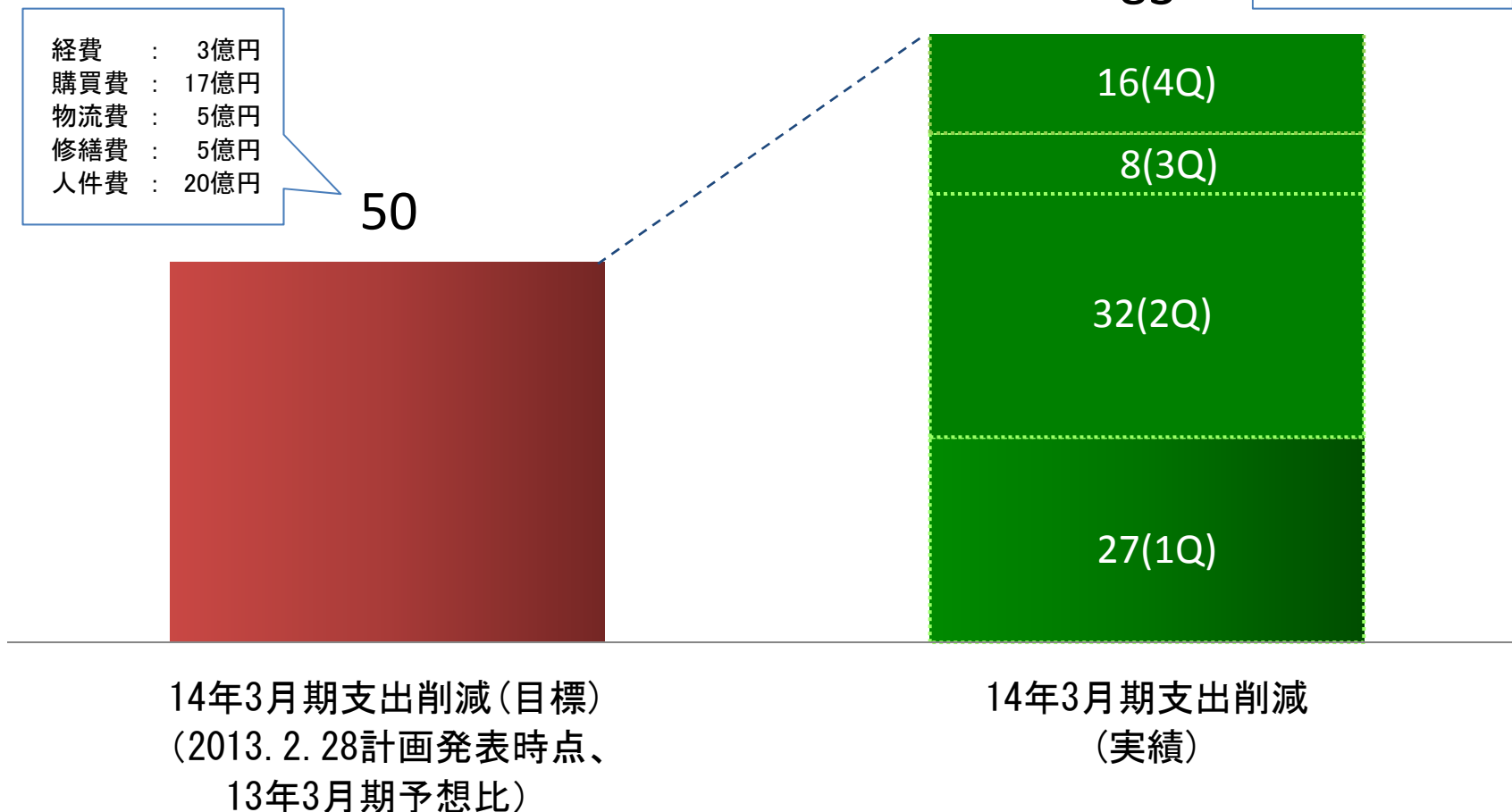
要因別



(注) 全社費用削減及び減損・評価減の金額は、在庫影響等を除いた営業利益への影響額

# 4. 全社支出削減の実績

## 14年3月期の全社支出削減(億円)



(注1) 購買費、物流費は数量、為替による増減を除く

(注2) 14年3月期支出削減は削減対象となっている支出の前期比減少額

この金額のうち、在庫影響等を除いたものが14年3月期損益への影響額となる

## **2** 2015年3月期 業績予想

1. 今後の事業環境
2. 業績予想の前提
3. 業績予想
4. セグメント別業績予想
5. 営業利益の増減

# 1. 今後の事業環境

## 化成品

- ◆ 国産ナフサ価格の高止まり等、厳しい事業環境が続くと予想
  - ・ 販売価格の是正とコスト削減に取り組むとともに、塩素誘導品のポートフォリオ見直し等により収益確保に努める

## 特殊品

- ◆ 半導体・太陽電池市場ともに回復基調にあるものの、依然として供給過剰が解消せず厳しい事業環境が続くと予想
  - ・ トクヤママレーシアで、太陽電池向け多結晶シリコンの販売を開始、半導体向けは生産条件の最適化を図る

## セメント

- ◆ 内需は官需・民需とも堅調に推移すると予想
  - ・ 輸送能力の増強により物流コストが上昇するものの、安定供給を果たしつつ販売数量・収益の確保に努める

## ライフアメニティー

- ◆ 国内市場は景気回復による需要の底打ち、海外市場は新興国を中心に需要の伸長を見込む
  - ・ 顧客のニーズに対応した新製品の開発に注力し、成長市場への拡販に取り組む

## 2. 業績予想の前提

	14年3月期 上期実績	14年3月期 下期実績	14年3月期 通期実績	15年3月期 通期予想
国産ナフサ価格 (円/kl)	64,700	69,900	67,300	67,000
為替 (円/\$)	99	102	100	100

### 3. 業績予想

#### 連結（前期比）

（億円）

	2014年3月期	2015年 3月期 予想	増 減	
			金額	%
売上高	2,873	3,030	+156	+5
営業利益	202	165	△37	△19
経常利益	149	100	△49	△33
当期純利益	102	65	△37	△36
1株当たり当期純利益(円)	29.37	18.68		
為替(円/\$)	100	100		
国産ナフサ価格 (円/kℓ)	67,300	67,000		

#### 定性情報(前期比)

##### (売上高)

増収要因： 多結晶シリコン等の販売数量増、  
苛性ソーダ・塩化ビニル樹脂等の  
販売価格是正

##### (営業利益)

増益要因： 売上高の増加  
減益要因： 修繕費・経費等の増加

##### (経常利益)

減益要因： 支払利息の増加

##### (当期純利益)

増益要因： 特別損益の改善  
減益要因： 税金費用の増加

## 4. セグメント別業績予想 (前期比)

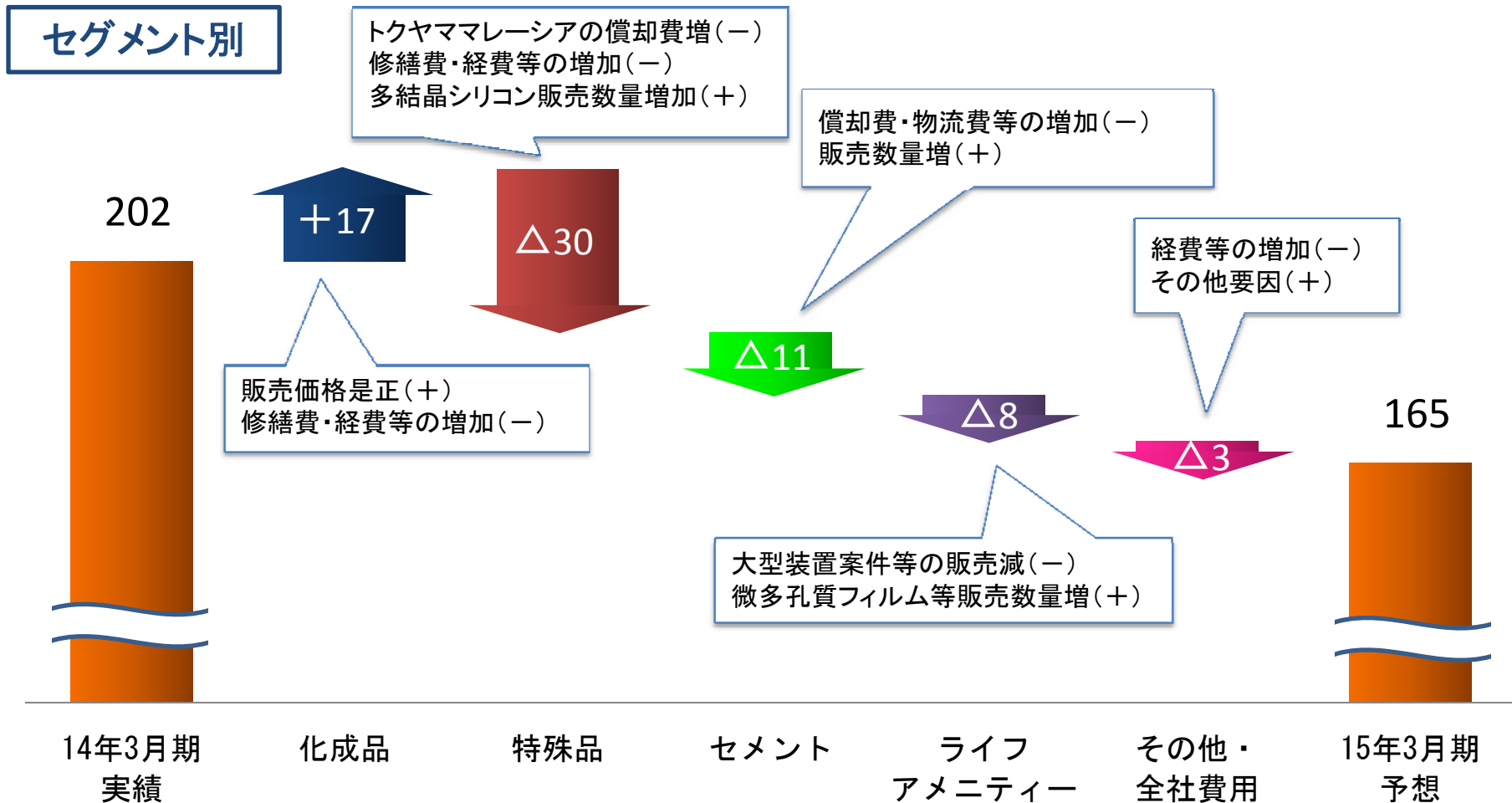
(億円)

	2014年3月期実績		2015年3月期予想		増減			
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	%	営業利益	%
化成品	864	22	915	40	+50	+6	+17	+79
特殊品	524	60	605	30	+80	+15	△30	△51
セメント	789	66	810	55	+20	+3	△11	△18
ライフアメニティー	570	48	580	40	+9	+2	△8	△18
その他	472	41	495	50	+22	+5	+8	+20
計	3,222	240	3,405	215	+182	+6	△25	△11
セグメント間 消去・全社費用	△349	△37	△375	△50	△25	—	△12	—
連結決算	2,873	202	3,030	165	+156	+5	△37	△19

(注)各事業セグメントの売上高・営業利益にはセグメント間取引を含む

# 5. 営業利益の増減

( 前 期 比 ) (億円)







### ③ ローリング3カ年計画

1. 100周年ビジョンと  
収益改善計画の概要
2. 収益改善計画の進捗と  
今後の取り組み
3. 事業戦略(セグメント別)
4. 徳山製造所の将来像
5. 財務方針

# 1. 100周年ビジョンと収益改善計画の概要

## (1) 100周年ビジョン（創立100周年：2018年2月）

100周年ビジョン

人財の活力と化学の創造力で未来を拓く、  
社会と共鳴するものづくり企業

基本戦略

- 国際競争力の強化  
徳山製造所：人財・技術を供給するマザーファクトリー  
マレーシア：グローバル市場で戦える製品の生産拠点  
中国：中国市場のニーズに適合した製品の生産拠点
- 戦略的成長事業の強化  
多結晶シリコン事業：世界トップレベルのポジション確保  
ライフアメニティー事業：顧客起点による市場開拓

支える仕組み

ガバナンス強化、新基幹システム活用による経営判断の迅速化  
組織機能強化（挑戦と変革プロジェクト）、DIMの推進

キーワード  
「挑戦と変革」

現在の延長線ではなく、挑戦と変革により  
グローバルな競争力をもつ企業への進化を実現する

# 1. 100周年ビジョンと収益改善計画の概要

## (2) 収益改善計画

多結晶シリコン事業の急激な収益悪化を受け、グループを挙げての収益改善計画を策定

収益改善計画  
(2013年2月発表)

### ①多結晶シリコン事業の再構築

- ・トクヤママレーシアのフル生産・フル販売、コストダウン
- ・徳山製造所の合理化、最適生産バランス構築

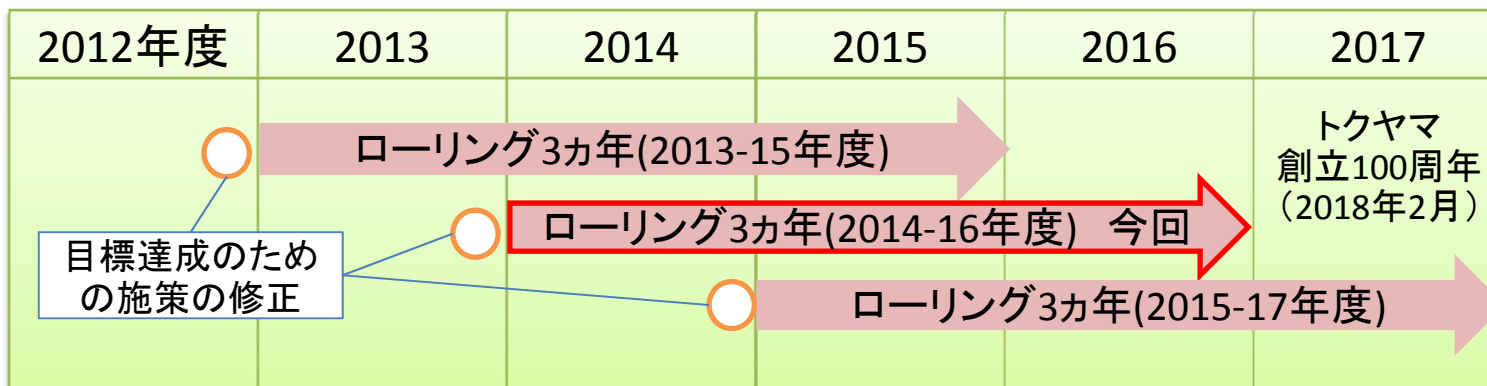
### ②既存・新規事業の収益向上

- ・既存事業の構造改革、収益向上
- ・新規事業の立上げ

### ③全社の収益改善(費用削減)

5～10億円の利益を稼ぐ  
事業創出・構造改革を  
10個以上！

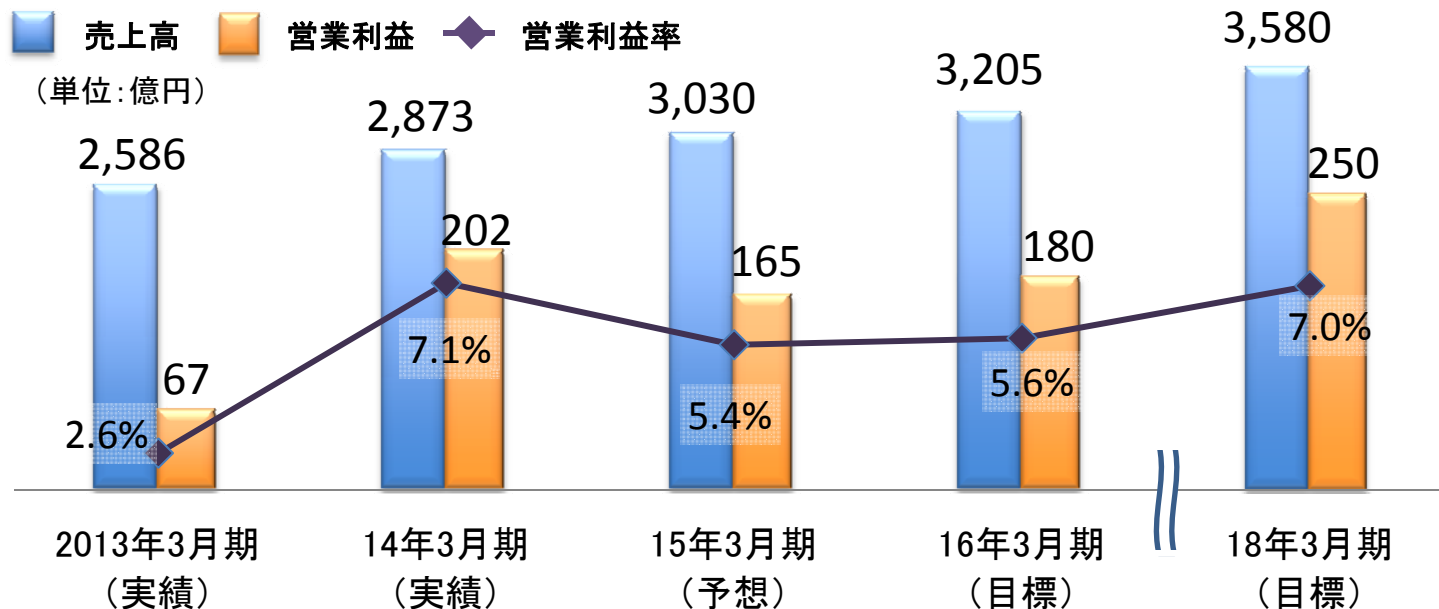
常に3年のスコープで目標、施策を吟味するローリング3カ年計画で収益改善に取り組む



新たな成長戦略

## 2. 収益改善計画の進捗と今後の取り組み

	～2013年度進捗	2014年度以降の取り組み
①多結晶シリコン事業再構築	(徳山)製造設備の減損(12年度末) (マレーシア)工事完了、試運転開始	(徳山)最適生産バランス構築 (マレーシア)生産・販売開始
②既存・新規事業収益向上	液化水素工場竣工 ソーダ灰共同事業会社設立 廃石膏ボードリサイクル工場竣工	酸化プロピレン製造設備増強 クリンカ輸出インフラ強化 乾式シリカ事業最適化
③費用削減	経費・購買費・人件費等の緊急的な削減により計画を上回る実績	生産性の向上、構造改革等により、恒久的な費用削減を目指す



今回のローリングにおいては  
16/3期、18/3期の  
目標を据え置く

## 3. 事業戦略 (1) 化成品セグメント

### 基本方針

- 安定的な利益を計上し、全社の収益を下支えするとともに、事業ポートフォリオの見直しにより更なる成長を目指す

### 施策

#### <ソーダ・塩カル事業>

- セントラル硝子(株)とソーダ灰・塩化カルシウム共同事業会社を設立することで合意

#### <クロルアルカリ・塩ビ事業>

- 岩谷産業(株)との合弁会社である山口リキッド  
ハイドロジェンにて液化水素の製造を開始
- 塩素誘導品ポートフォリオの見直し



当社ソーダ灰プラント

## 3. 事業戦略 (1) 化成品セグメント

### ソーダ灰・塩化カルシウム共同事業会社の設立

セントラル硝子(株)とソーダ灰・塩化カルシウムの販売について、販売事業を移管・集約することで合意し、共同事業会社を設立した。

2015年6月以降、国内でのソーダ灰の生産は当社1社体制となる。

(当社ソーダ灰生産能力:34万トン)

新会社名: トクヤマ・セントラルソーダ株式会社

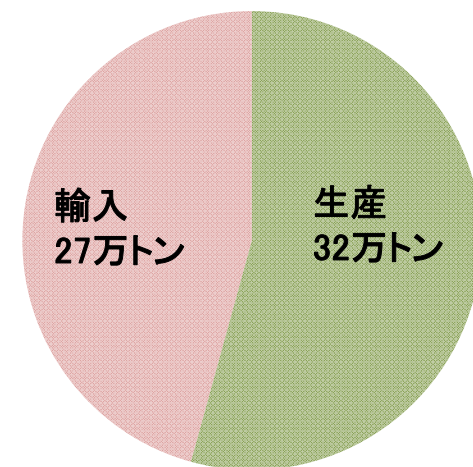
設立: 2014年3月14日

業務開始: 2014年10月1日(予定)

資本金: 1,000万円

(出資/65%トクヤマ、35%セントラル硝子)

2012年度ソーダ灰内需 59万トン  
(自家消費含む)



出典:ソーダ工業会統計

## 3. 事業戦略 (1) 化成品セグメント

### 液化水素の製造開始

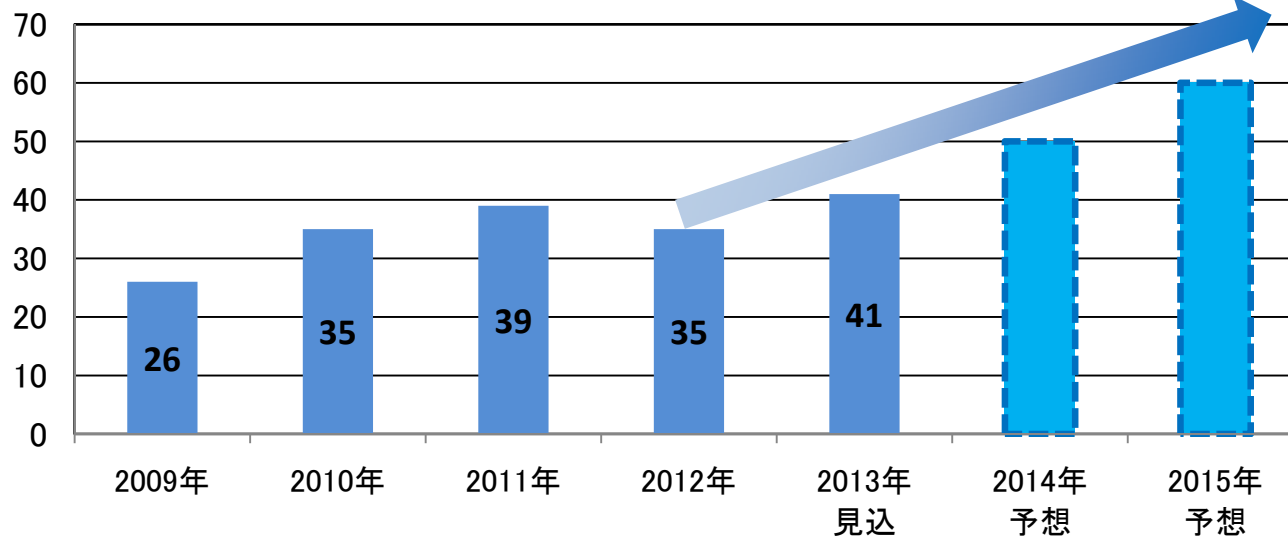
2013年6月より、岩谷産業(株)との合弁会社である山口リキッドハイドロジェンにて液化水素の製造開始。

液化水素は、ロケット燃料のほか、太陽電池やLEDの製造、将来的には燃料電池自動車などにも利用が期待され、今後も大幅な需要増が見込まれる。

現在の液化能力は3,000L/hであるが、将来的には増設も視野に入れる。

液化水素需要推移

単位:百万m<sup>3</sup>/暦年



(注)岩谷産業及び当社予想

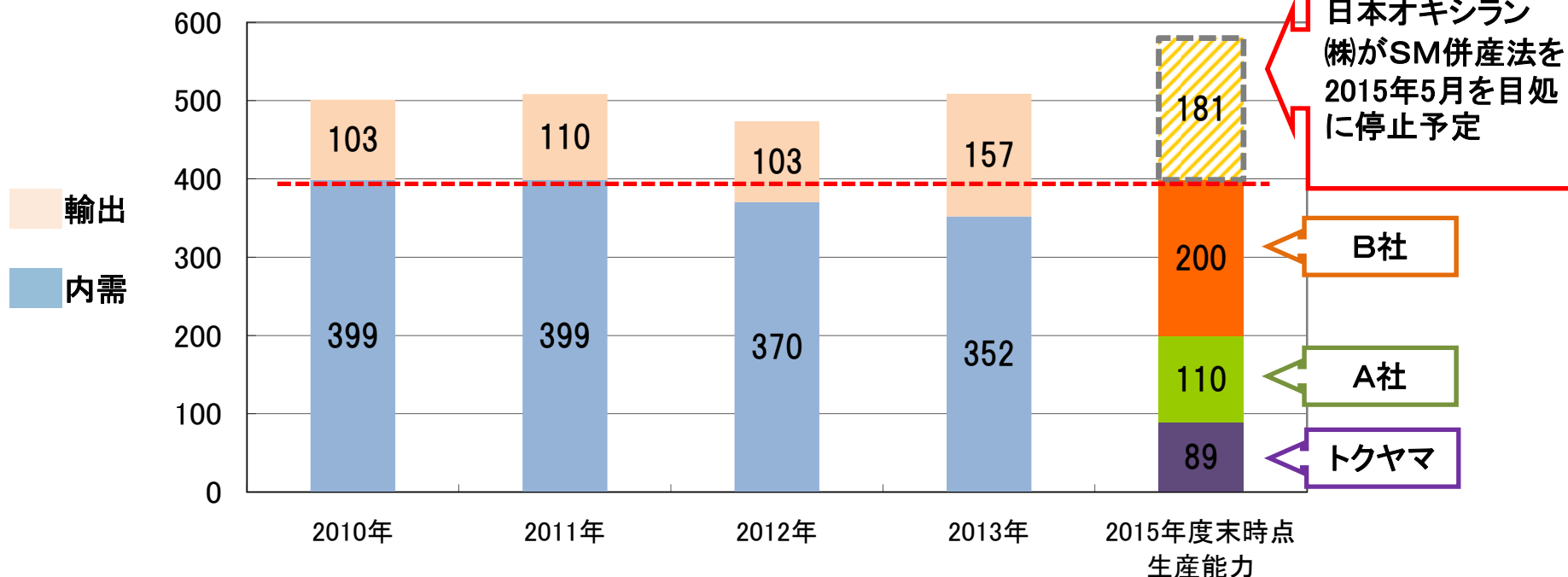
# 3. 事業戦略 (1) 化成品セグメント

## 塩素誘導品ポートフォリオの見直し

主要塩素誘導品の一つでウレタン原料などに使用される酸化プロピレンの生産設備をアジアでの自動車生産の復調などを背景に2014年7月に増強し、生産能力を10,000トン増の89,000トン／年とする。

単位：千トン／暦年

酸化プロピレン国内バランス



日本オキシラン(株)がSM併産法を2015年5月を目処に停止予定

B社

A社

トクヤマ

(注) 経済産業省統計、財務省貿易統計を基に当社推定



## 3. 事業戦略 (2) 特殊品セグメント

### 基本方針

- 需要に応じた収益最大化のための販売戦略を推進し、最適生産体制を構築する

### 施策

#### <多結晶シリコン事業の再構築>

- トクヤママレーシアでの販売開始
- 徳山製造所の合理化
- 乾式シリカの日本と中国の2拠点での事業最適化

#### <シェイパル(窒化アルミニウム)事業>

- 高い放熱性を武器に、需要拡大が予想されるパワーデバイス用途やLED用途への拡販



多結晶シリコン



乾式シリカ



窒化アルミニウム

## 3. 事業戦略 (2) 特殊品セグメント

### 多結晶シリコン事業の再構築

#### 【トクヤママレーシア】

##### <半導体向けグレード>

認定取得に向けて、設備・品質面での生産最適条件を確認中。

顧客認定用サンプルについては、2015年度より出荷予定。

##### <太陽電池向けグレード>

2014年中頃より中国、韓国、台湾、日本各国の大手メーカーへ販売予定。

#### 【徳山製造所】

2012年度末に、製造設備を減損処理。



トクヤママレーシア

## 3. 事業戦略 (2) 特殊品セグメント

### 多結晶シリコン事業の再構築

多結晶シリコンの併産品である乾式シリカにつき、徳山製造所と徳山化工（浙江）有限公司（中国）の2拠点での事業最適化に取り組む。

中国を中心にアジア市場において伸長著しい乾式シリカ表面処理グレードの事業拡大を図るため、徳山製造所の年産2,000トンの一部を徳山化工（浙江）に移設することを決定。表面処理グレードは、塗料・接着剤・インク等の用途で、粘度調整剤・沈降防止剤・流動化剤として広く使用されており、今後の需要拡大が期待される。

#### <計画の概要>

設備投資額： 840万US\$（約9億円）

着工予定： 2014年5月

運転開始予定： 2015年6月

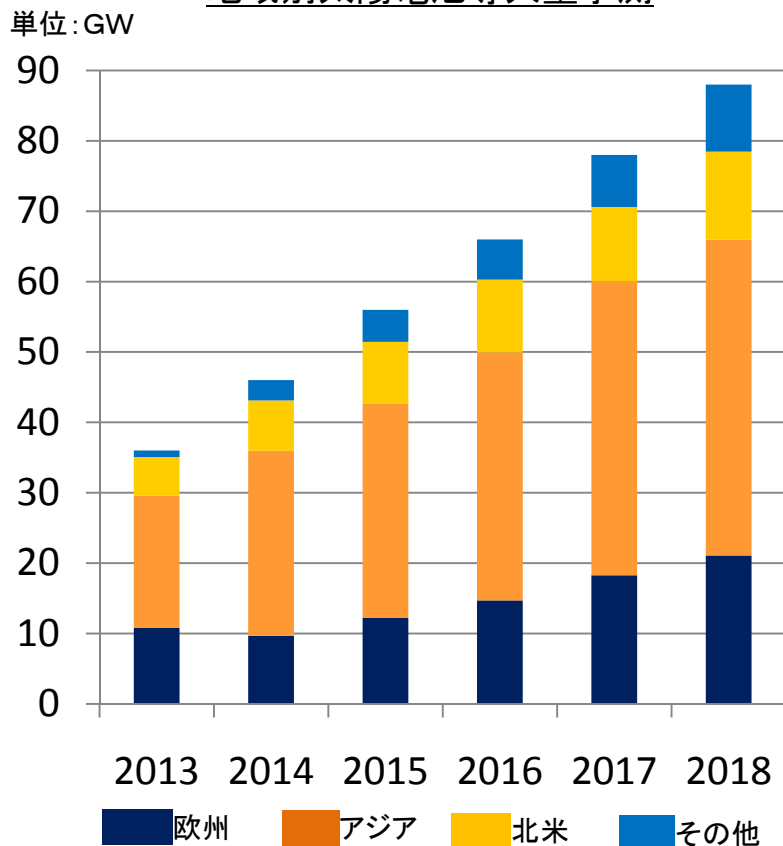


徳山化工（浙江）

## 3. 事業戦略 (2) 特殊品セグメント

### 多結晶シリコンの市場動向

地域別太陽電池導入量予測



(注)IHS iSuppli Market Tracker (PV Integrated) Q1  
2014 のデータ等を基に当社予測

#### 各国の状況

##### <中国>

- ◆2015年までの累積導入目標を35GWに上方修正
- ◆太陽光発電産業の健全な成長の為の政策を発表

##### <日本>

- ◆東日本大震災による福島原発事故などにより、再生可能エネルギー活用の気運が高まる
- ◆2012年7月の現行固定価格買取制度の導入以降、導入量が急増

##### <米国>

- ◆様々な太陽光発電の普及政策が存在し、市場拡大を後押ししている。特に、大規模太陽光発電市場では、州レベルでの政策が市場を牽引

##### <ドイツ>

- ◆太陽光発電システムの低価格化が進んだことで、系統電力より安価な電力供給源になりつつある。今後、自立成長に移行し、再度需要が拡大していくと期待される

## 3. 事業戦略 (3) セメントセグメント

### 基本方針

- 事業環境の変化に対応した最適な製造・販売・物流体制の整備と海外事業及び新規事業の育成・強化

### 施策

#### <セメント事業>

- 国内輸送能力増強(タンカー新船2隻)
- クリンカ輸出体制の確立とトクヤマニューカレドニアの安定操業
- トクヤマエムテックによるインフラの補修・補強事業の拡充

#### <資源環境事業>

- トクヤマ・チヨダジプサムによる廃石膏ボードリサイクル事業の拡大

- 徳山製造所
- 水島リバーメント(高炉セメント製造)
- サービスステーション
- 営業拠点



当社のセメント関連事業所とサービスステーション

## 3. 事業戦略 (3) セメントセグメント

### 廃石膏ボードリサイクル事業

増大する廃石膏ボードは、大部分が埋立て処分されており、再資源化が重要課題

トクヤマ独自の結晶化技術により、世界で初めて廃石膏を原料石膏として100%再生することに成功。石膏ボードメーカーのチヨダウーテ(株)と廃石膏ボードリサイクル事業を目的とした新会社トクヤマ・チヨダジプサムを2011年8月に設立。

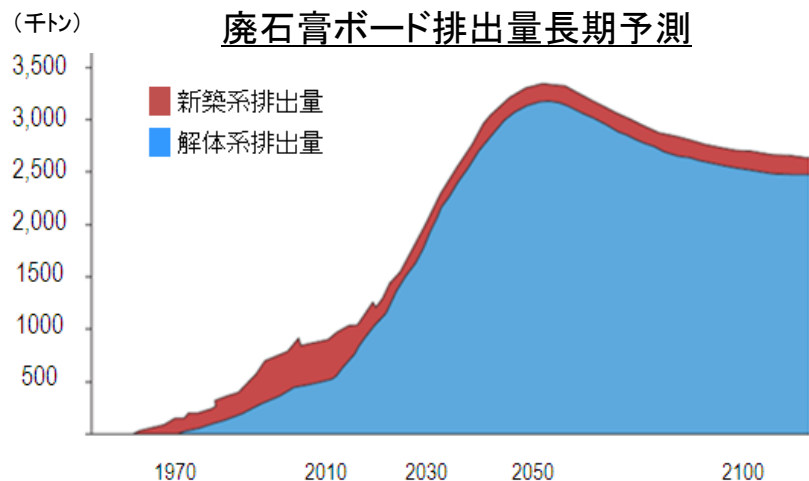
社会的課題を解消しつつ、両社にとって貴重な原料石膏供給源を確保することも期待され、今後事業の拡大、日本全国への展開を計画



廃石膏ボード



再生された石膏



出典: 石膏ボード工業会 石膏ボードハンドブック

## 3. 事業戦略 (4) ライフアメニティーセグメント

### 基本方針

- 顧客起点の開発・製造・販売体制の確立・強化により、国内外の市場で優位なポジションを獲得、事業の拡大を図り、人々の生活・健康(QOL)の改善に貢献する

### 施策

#### <NF事業(微多孔質フィルム)>

- 上海／天津徳山塑料の設立・増強など、紙おむつの需要動向に則したスピード感ある事業拡大

#### <ファインケミカル事業>

- ジェネリック医薬品向け原薬の受注拡大、眼鏡レンズ用フォトクロミック材料のシェア拡大

#### <ポリオレフィンフィルム事業(サン・トックス)>

- 好調なコンビニ(日配品)向けの拡販、新規市場開拓、コストダウンによる収益拡大

#### <樹脂サッシ事業(エクセルシャノン)>

- 工務店・大手ハウスメーカーとの連携強化によるシェア拡大、樹脂サッシの普及促進

#### <歯科器材事業(トクヤマデンタル)>

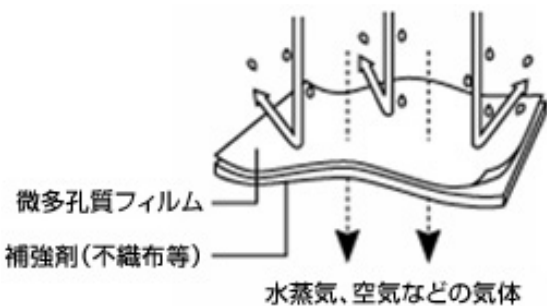
- 新製品の開発、海外展開の加速

# 3. 事業戦略 (4) ライフアメニティーセグメント

## NF事業(微多孔質フィルム)

経済成長著しい中国やアジアで紙おむつ使用量が急拡大

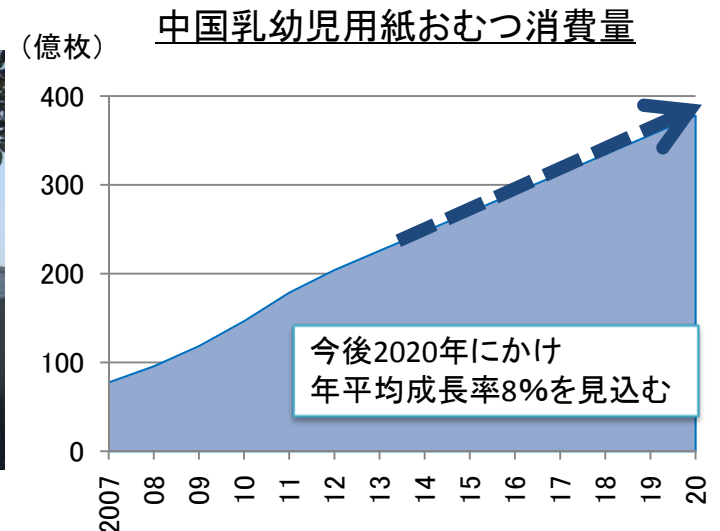
上海製造拠点の増強(2011年)、天津製造拠点の設立(2011年)及び増強(2013年)により、中国国内に工場を持つ紙おむつメーカーと連携して急拡大する需要に対応  
中国における紙おむつ向け微多孔質フィルムの生産能力は4.8億m<sup>2</sup>/年  
(トクヤマグループ全体では7.2億m<sup>2</sup>/年)



微多孔質フィルムの機能



天津徳山塑料



(注) 中国造紙協会推定



## 4. 徳山製造所の将来像

### 徳山製造所のビジョン

- 世界に勝ち残れる製造所の実現
- 国際競争力のある周南コンビナートの中核となる

### 徳山製造所の方針

#### 活気あふれるものづくり拠点

- 徹底的にインテグレートされた製造所
- 連携強化された周南コンビナートの中核となる製造所
- 人にやさしく、地域と共存する製造所

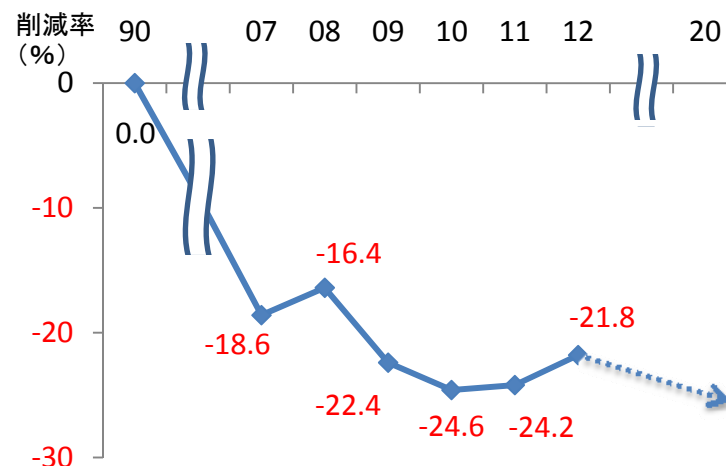


徳山製造所

### 取り組み

- エネルギー消費原単位の削減
- 生産統合システムの構築
- コンビナート連携の中核企業として、エネルギー、廃棄物処理等、地域貢献を目的とする事業を推進し役割を担う

#### エネルギー消費原単位指数の推移



# 5. 財務方針

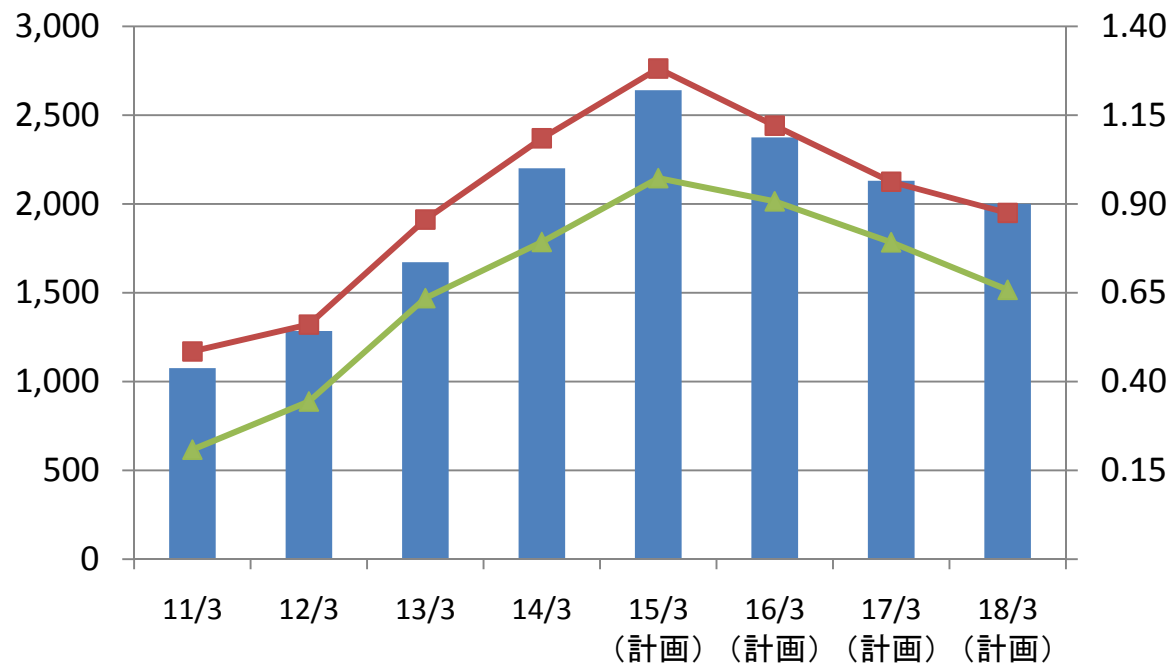
●ハイブリッドローン(劣後ローン)の実行、投資の厳選(償却の75%以内)、収益改善計画の遂行により、当面は財務基盤の回復、安定化に努め、新たな成長戦略推進に備える。

## 有利子負債残高推移 (単体)

■有利子負債 ■D/Eレシオ ▲ネットD/Eレシオ

(有利子負債:億円)

(D/Eレシオ)



2015年3月期 (計画)	
有利子負債残高	2,640億円
D/Eレシオ	1.28
ネットD/Eレシオ*	0.97



2018年3月期 (計画)	
有利子負債残高	2,000億円
D/Eレシオ	0.87
ネットD/Eレシオ*	0.66

\*ネットD/Eレシオ: (有利子負債 - 現預金・現金同等物・金銭信託) / 自己資本



## 4 補足資料

1. 連結財務諸表(要約)
2. キャッシュ・フローの状況
3. 営業外損益の内訳
4. 特別損益の内訳
5. 主要指標
6. 業績推移
7. 主要原燃料価格推移
8. 中国の多結晶シリコン市況
9. 設備投資額・減価償却費推移
10. 有利子負債残高推移
11. フリー・キャッシュフロー推移
12. セグメント別売上高／営業利益
13. セグメント別業績予想(上期・下期)
14. 100周年ビジョンにおける事業カテゴリ
15. 主要グループ会社

4 補足資料

# 1. 連結財務諸表(要約)

## 損益計算書

(億円)

	2013年 3月期	2014年 3月期	増減	
			金額	%
売上高	2,586	2,873	+286	+11
売上原価	1,914	2,069	+154	+8
販管費	603	600	△2	△0
営業利益	67	202	+134	+199
営業外損益	△35	△53	△17	—
経常利益	32	149	+117	+363
特別損益	△312	△20	+292	—
税前当期純損益	△280	129	+410	—
法人税等	98	27	△71	△72
当期純損益	△379	102	+481	—

4 補足資料

# 1. 連結財務諸表(要約)

## 貸借対照表

(億円)

	2013年 3月末	2014年 3月末	増減	
			金額	%
資産合計	5,182	5,763	+580	+11
流動資産	1,861	1,916	+55	+3
有形固定資産	2,743	3,231	+487	+18
無形固定資産	79	101	+21	+27
投資その他の資産	498	514	+16	+3

	2013年 3月末	2014年 3月末	増減	
			金額	%
負債合計	2,943	3,398	+454	+15
流動負債	1,156	992	△163	△14
固定負債	1,787	2,405	+618	+35
純資産合計	2,238	2,364	+125	+6

4 補足資料

## 2. キャッシュ・フローの状況

連 結

(億円)

	2013年 3月期	2014年 3月期
営業活動によるキャッシュ・フロー①	170	341
投資活動によるキャッシュ・フロー②	△606	△644
フリー・キャッシュ・フロー③(①+②)	△436	△302
財務活動によるキャッシュ・フロー④	364	459
現金及び現金同等物に係る換算差額⑤	6	14
現金及び現金同等物の増減額⑥(③+④+⑤)	△64	171
現金及び現金同等物の期首残高⑦	584	524
連結の範囲変更に伴う増減額⑧	4	4
現金及び現金同等物の期末残高⑨(⑥+⑦+⑧)	524	699

4 補足資料

### 3. 営業外損益の内訳

連 結  
( 前 期 比 )

(億円)

		2013年 3月期	2014年 3月期	差損益	備 考
営業外収益	受取利息・配当金	5	5	+0	
	その他	24	24	△0	
	計	30	30	+0	
営業外費用	支払利息・社債利息	23	27	△3	
	その他	42	56	△13	借入関連費用 △19 休止部門費減 +4
	計	65	83	△17	
営業外損益		△35	△53	△17	

(注) 差損益の表示は、利益を+、損失を△としている

4 補足資料

# 4. 特別損益の内訳

連 結  
( 前 期 比 )

(億円)

	2013年 3月期	2014年 3月期	差損益	備 考
特 別 利 益	10	6	△3	固定資産売却益 △4
特 別 損 失	323	27	+296	固定資産減損損失 +268 棚卸資産評価損 +24
特 別 損 益	△312	△20	+292	

(注) 差損益の表示は、利益を+、損失を△としている



## 5. 主要指標① (前期比)

		2013年3月期		2014年3月期		増 減	
		連結	単体	連結	単体	連結	単体
設備投資額	億円	975	159	610	51	△364	△108
減価償却実施額	億円	232	184	167	113	△64	△71
研究開発費	億円	100	77	87	64	△13	△13
金融収支	億円	△17	△2	△21	19	△3	+21

## 5. 主要指標②

(前期末比)

		2013年3月末		2014年3月末		増 減	
		連結	単体	連結	単体	連結	単体
有利子負債	億円	1,877	1,672	2,407	2,200	+530	+528
期末人員	人	5,651	2,122	5,756	2,041	+105	△81

## 5. 主要指標③

(予想の前期比)

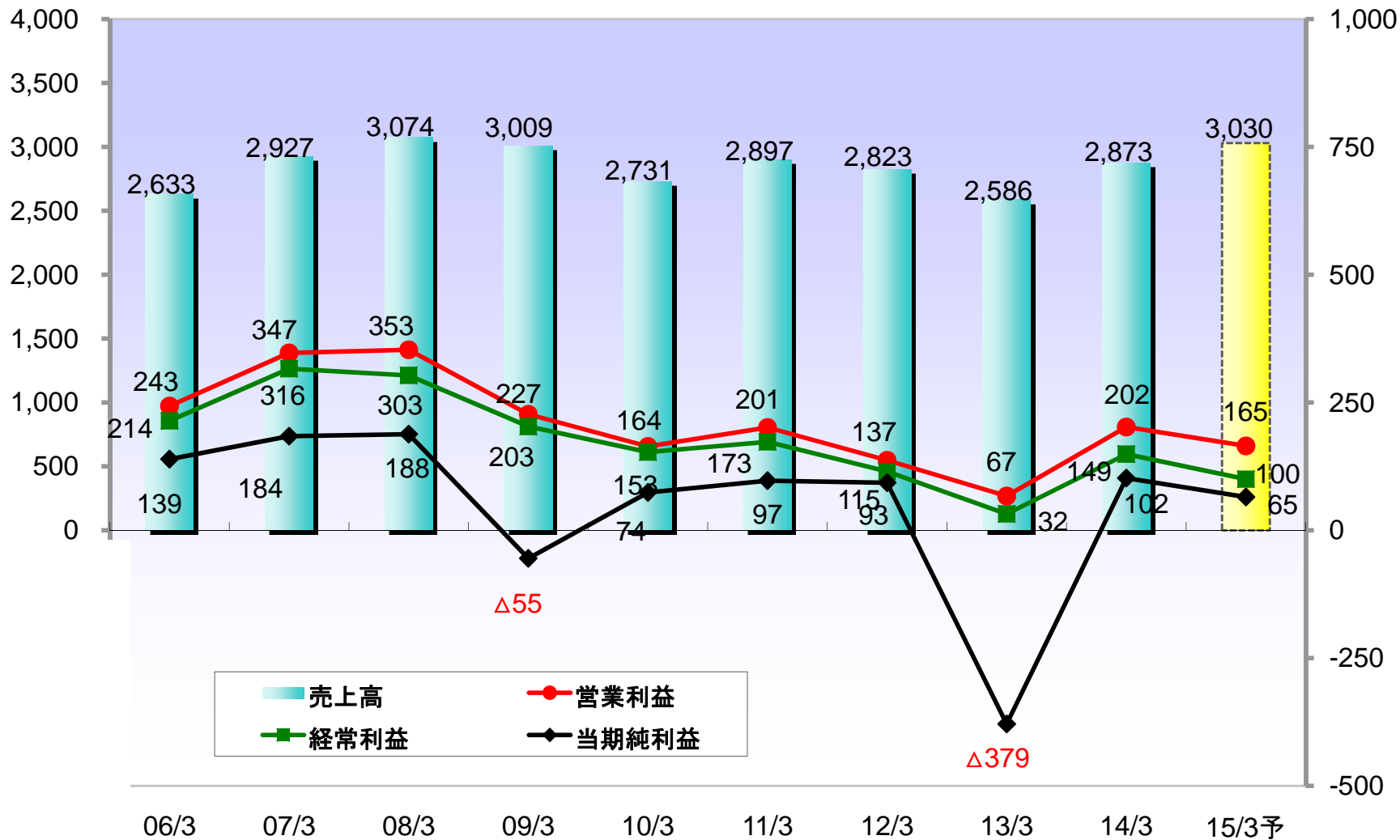
(億円)

	2015年3月期 予想		2014年3月期 実績		増 減	
	連結	単体	連結	単体	連結	単体
設備投資額	305	91	610	51	△305	+40
減価償却費	224	115	167	113	+56	+1
研究開発費	105	79	87	64	+18	+15

# 6. 業績推移 連結 (通期)

売上高(億円)

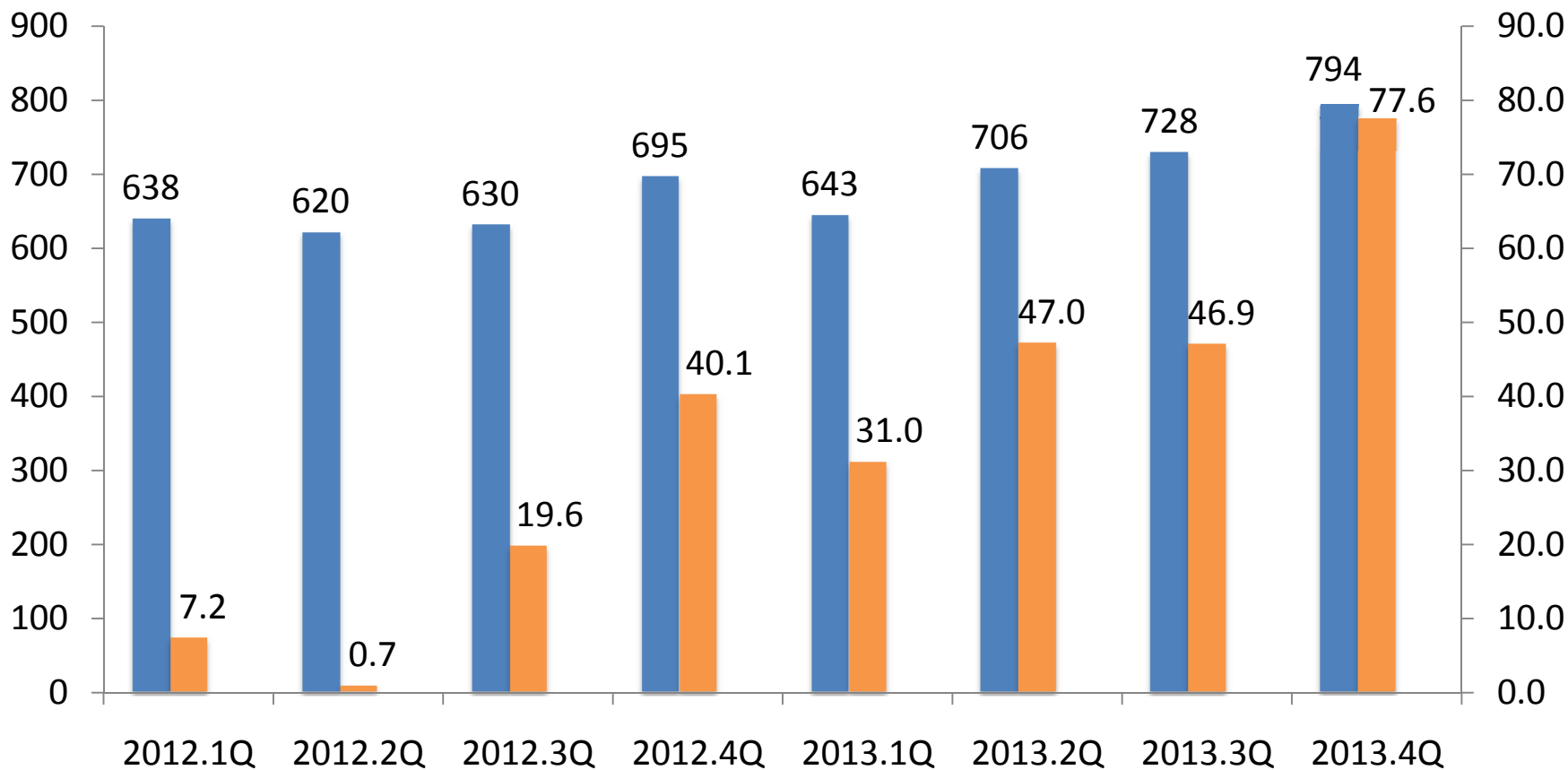
利益(億円)



# 6. 業績推移 ( 四 半 期 )

連結

( 億 円 )



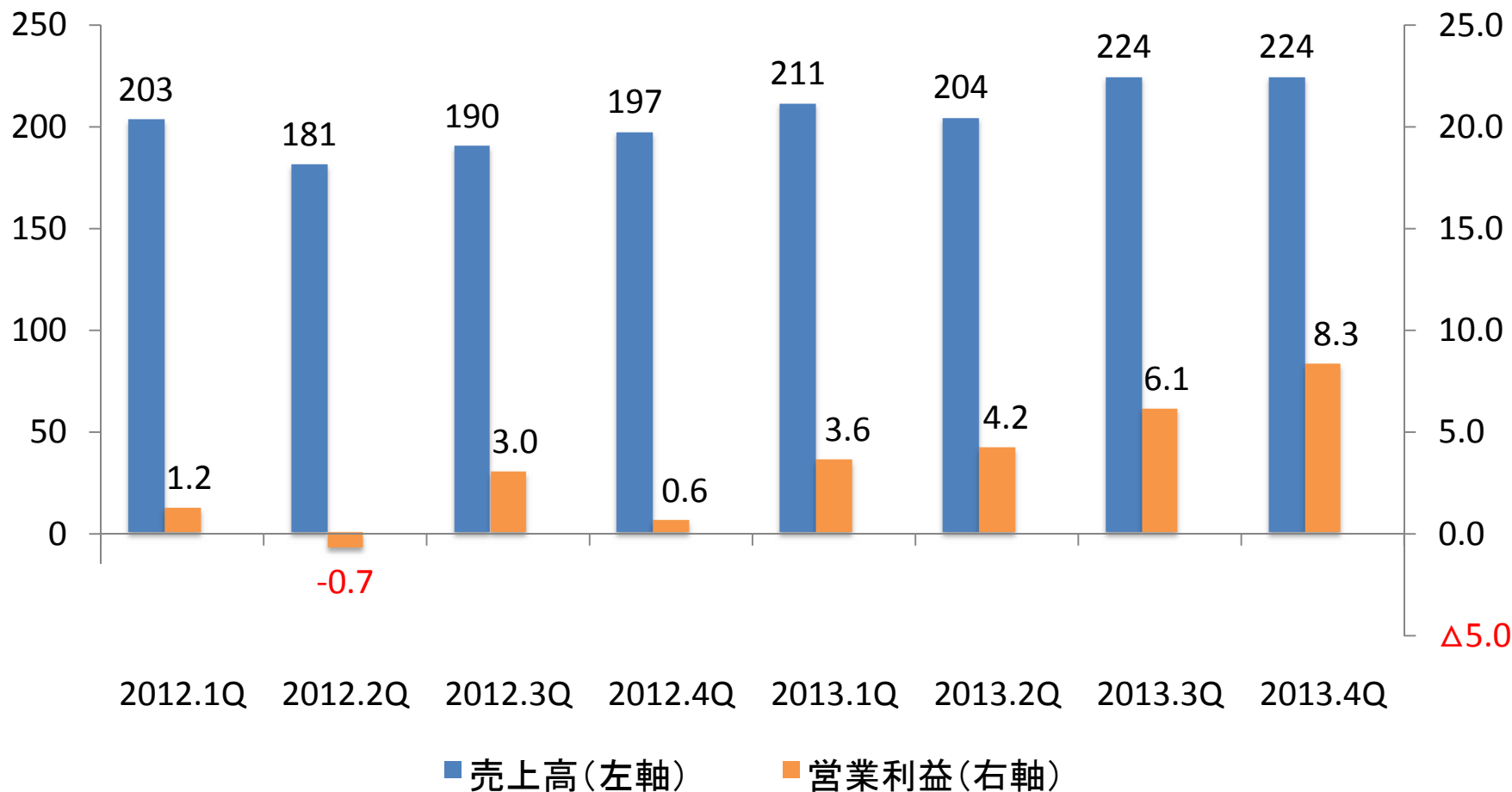
■ 売上高(左軸)

■ 営業利益(右軸)

# 6. 業績推移 ( 四 半 期 )

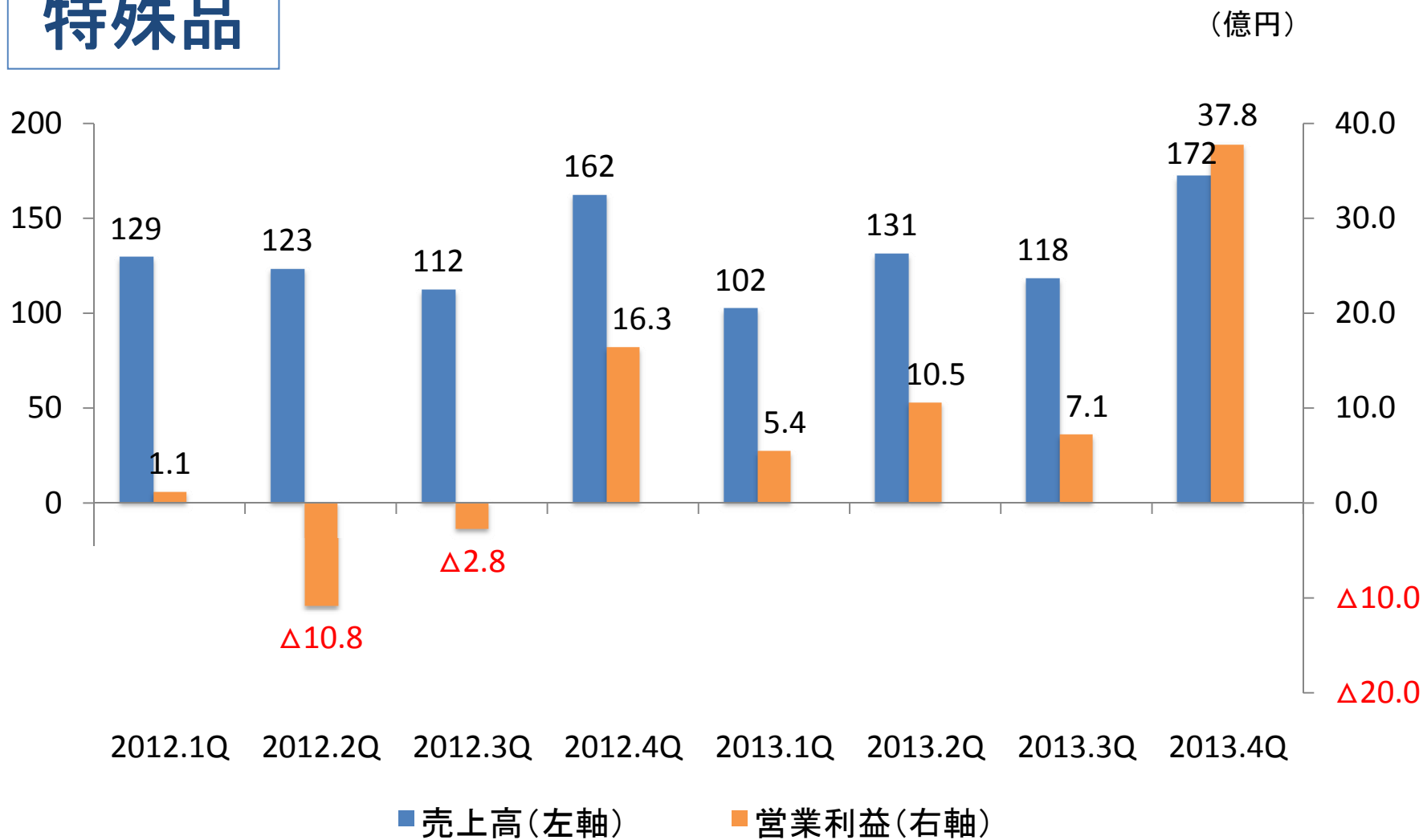
## 化成品

( 億 円 )



# 6. 業績推移 ( 四 半 期 )

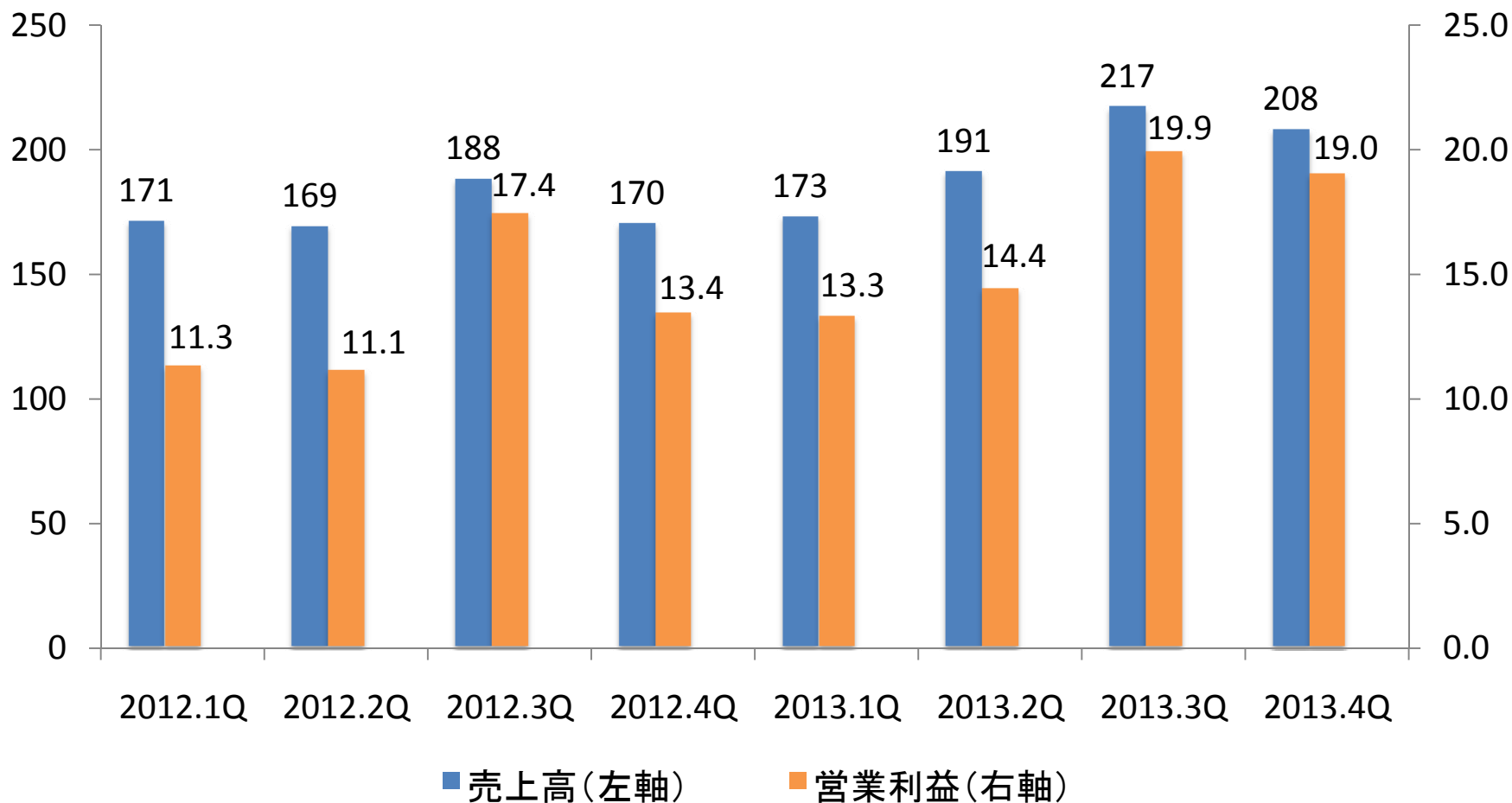
## 特殊品



## 6. 業績推移 ( 四 半 期 )

### セメント

(億円)

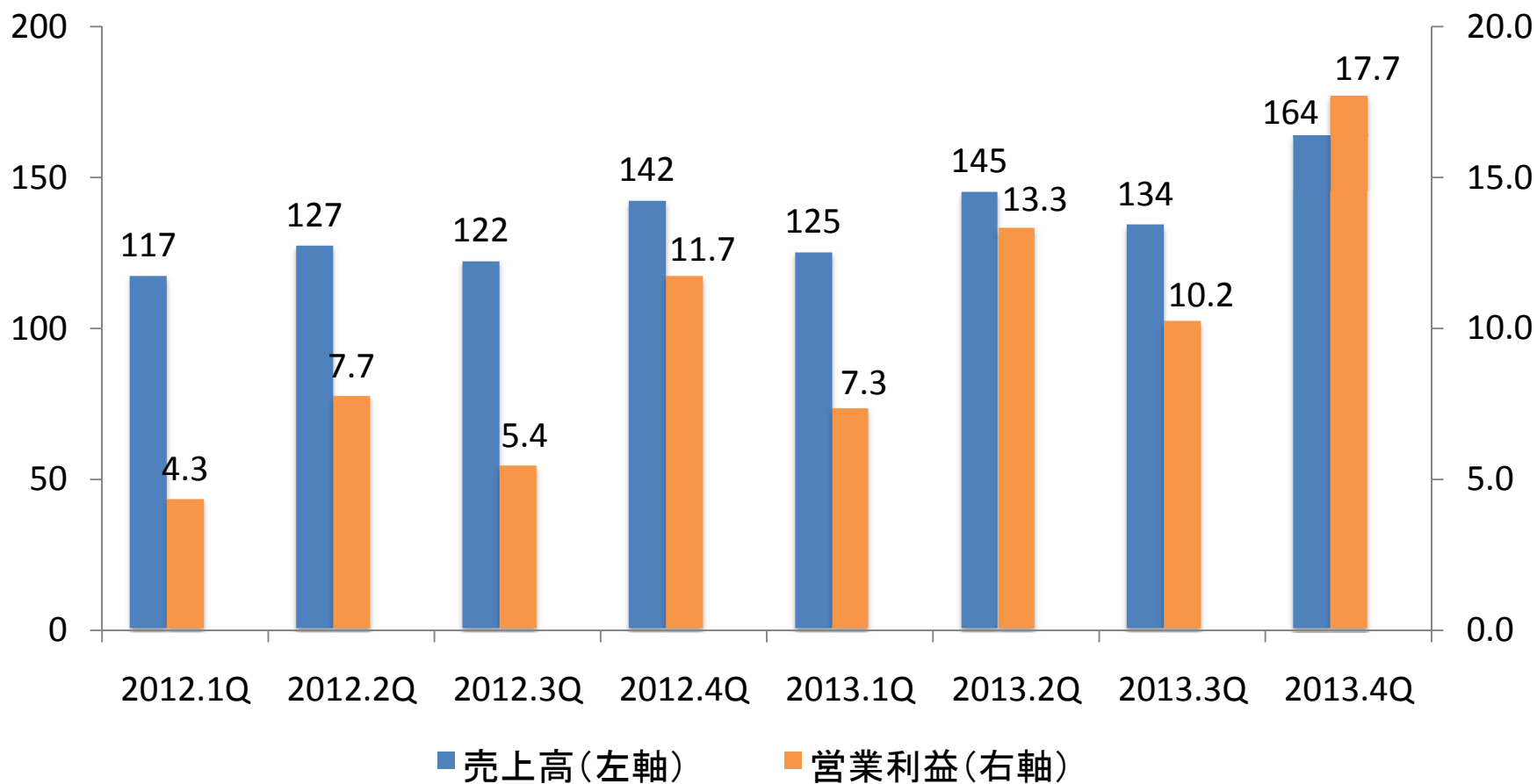




## 6. 業績推移 ( 四 半 期 )

### ライフアメニティー

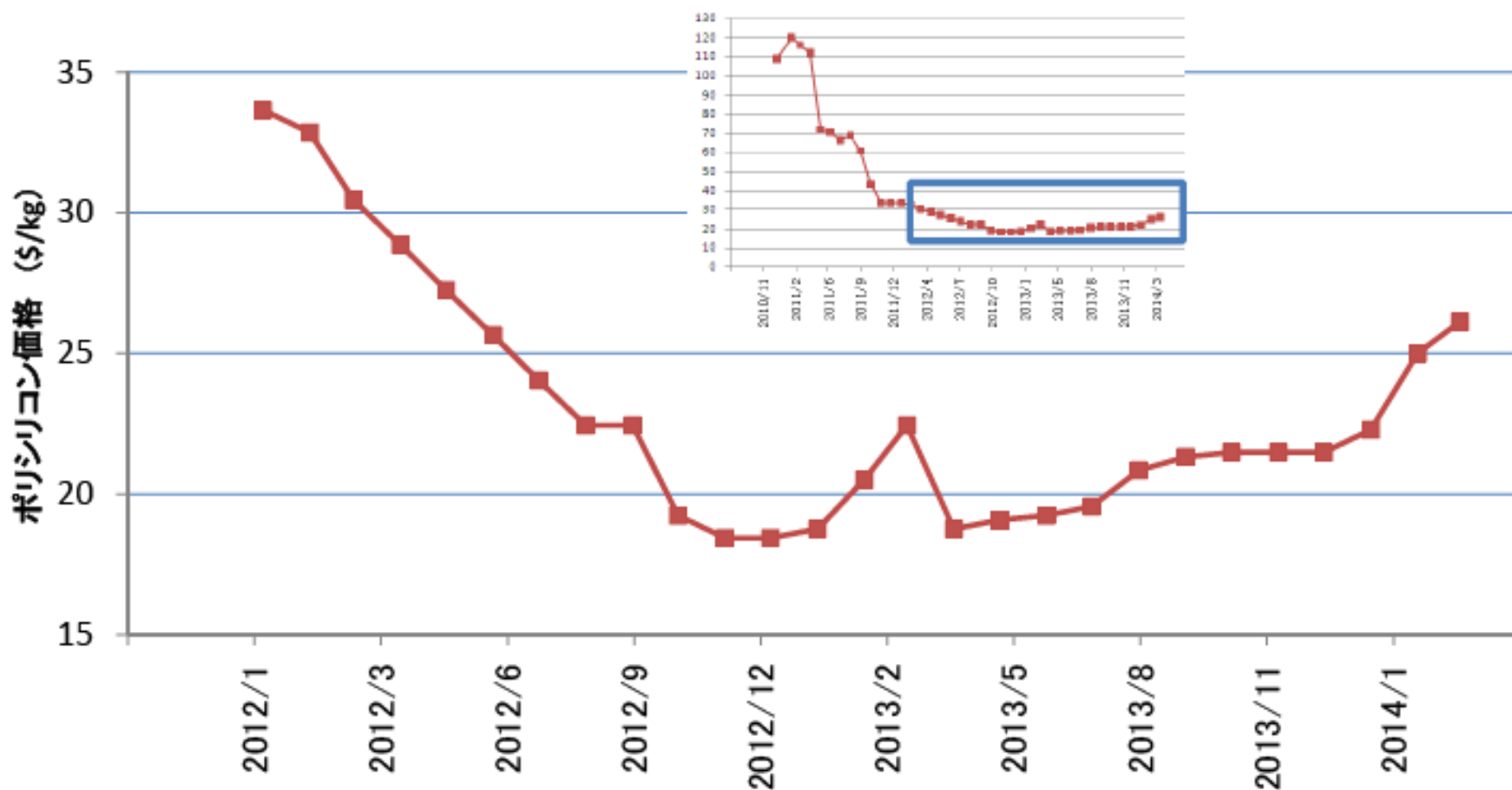
(億円)





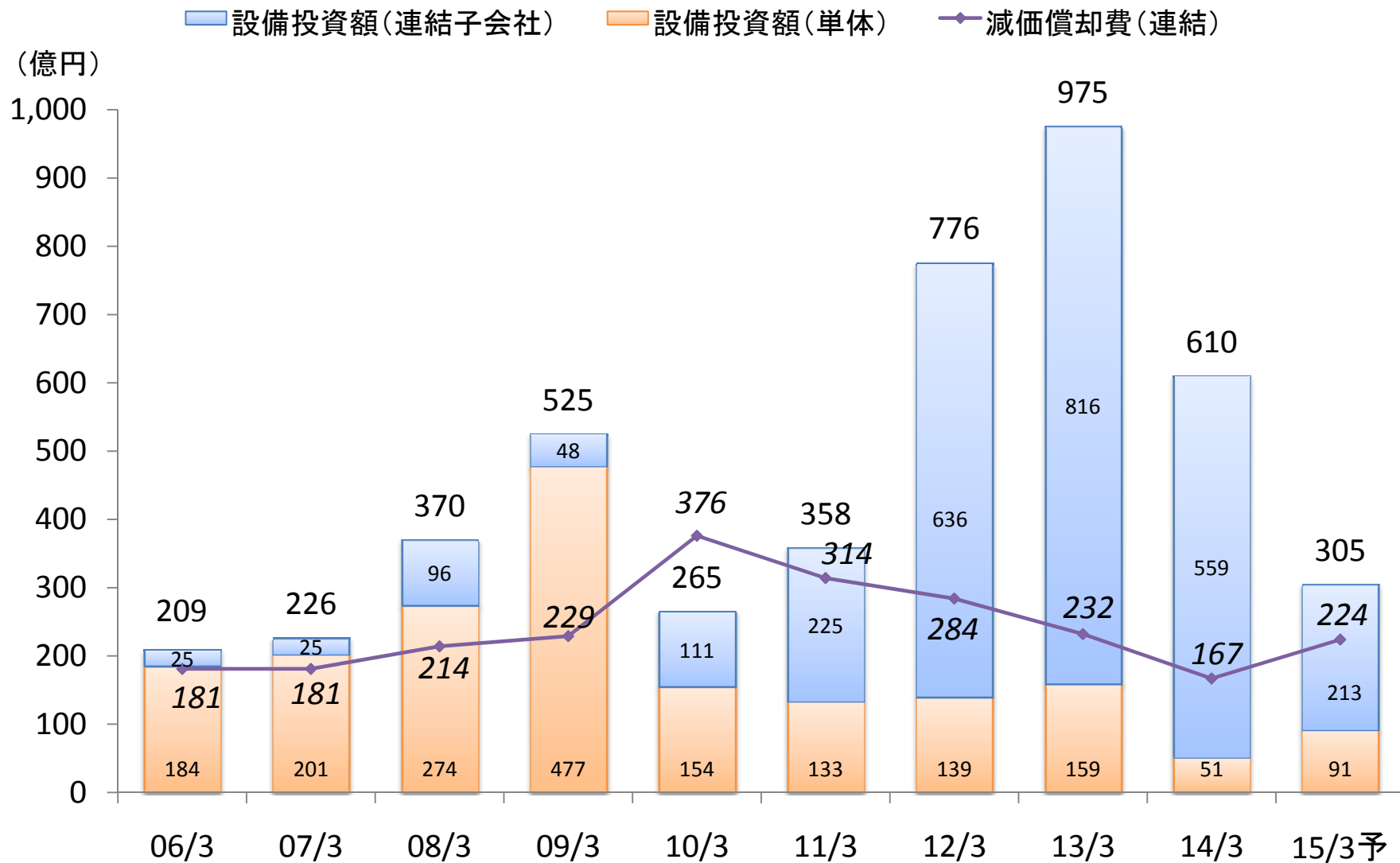
# 8. 中国の多結晶シリコン市況

ポリシリコン中国国内価格(税込)の推移



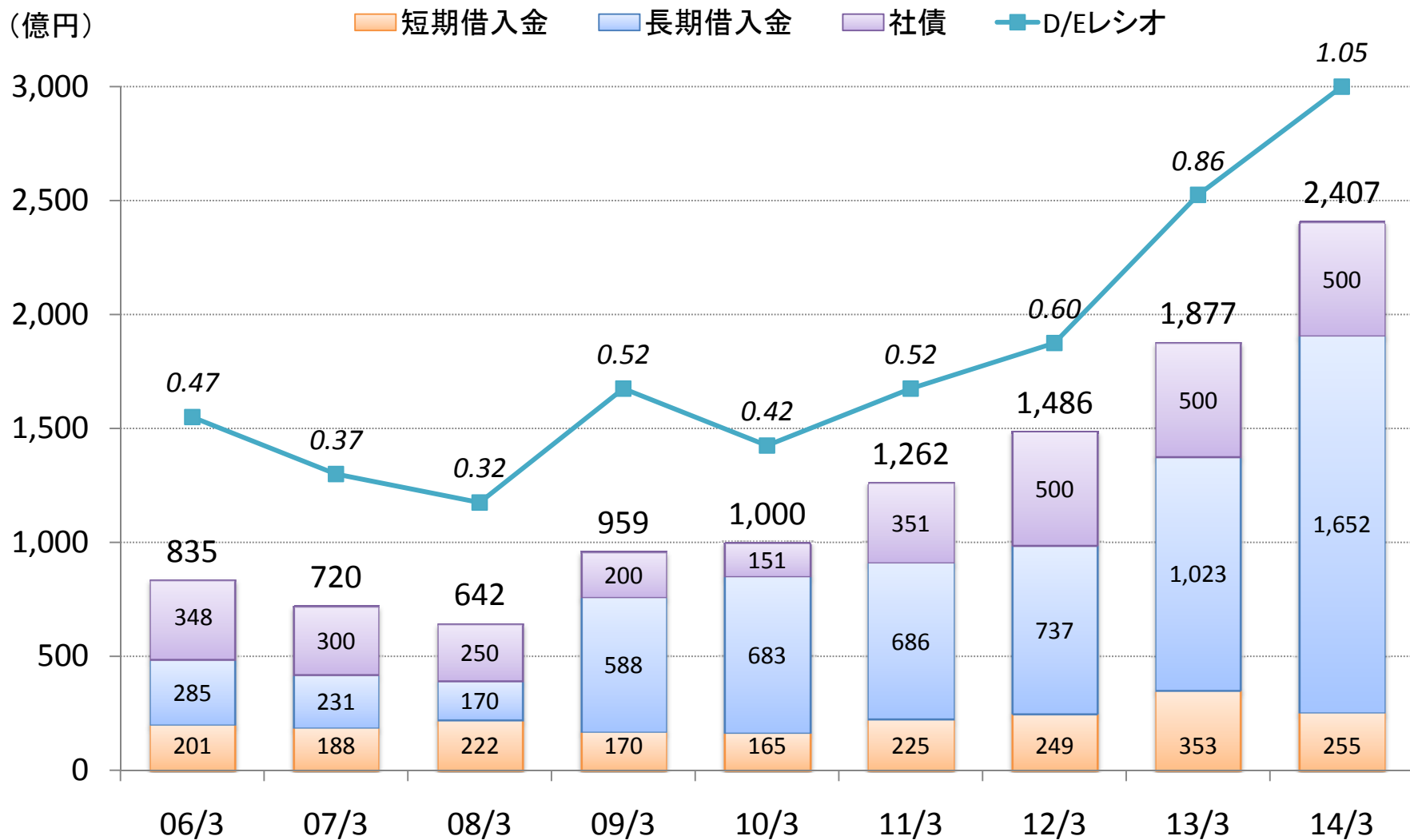
(注)調査会社のデータに基づいて当社作成

# 9. 設備投資額・減価償却費推移

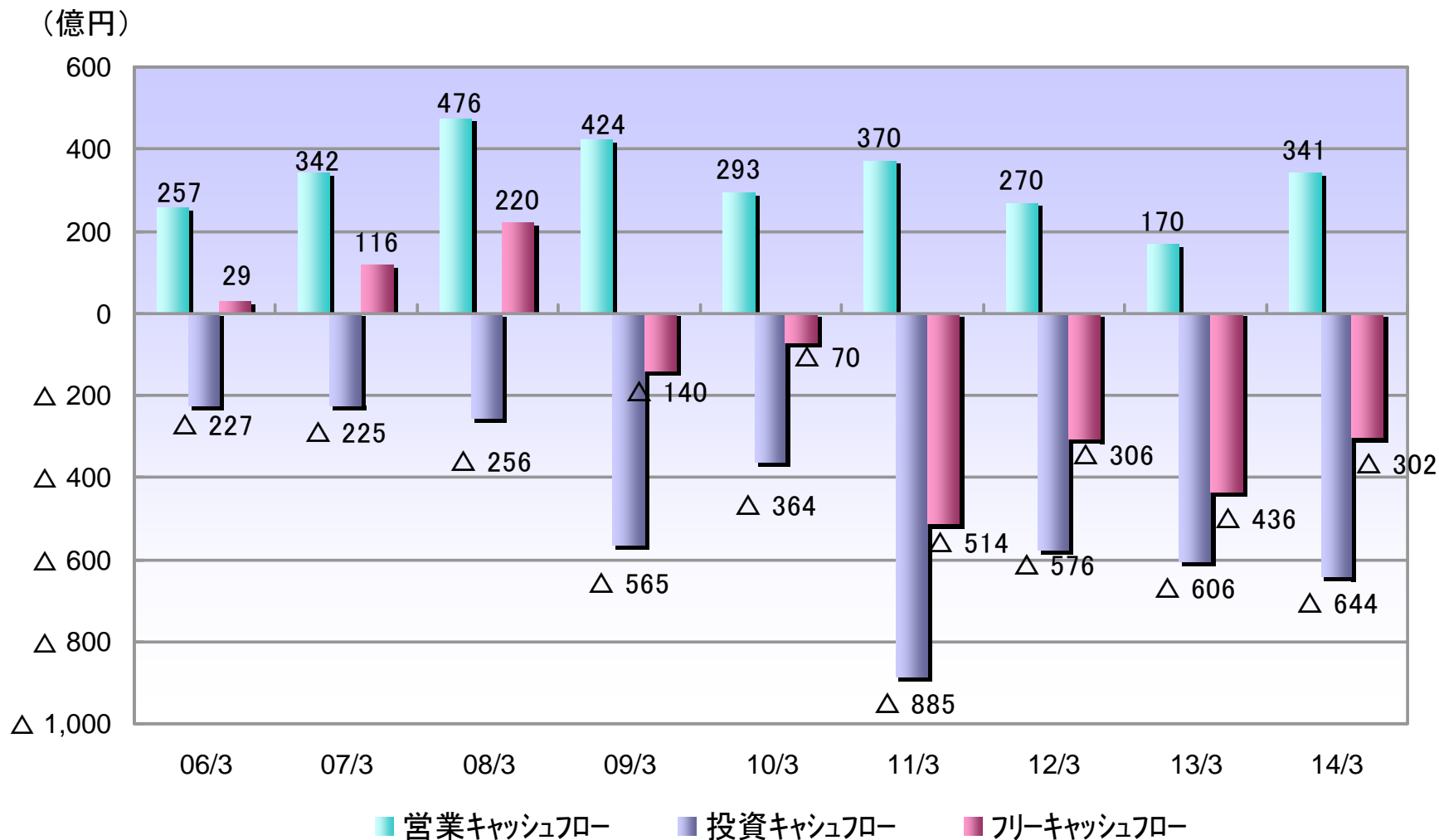


# 10. 有利子負債残高推移

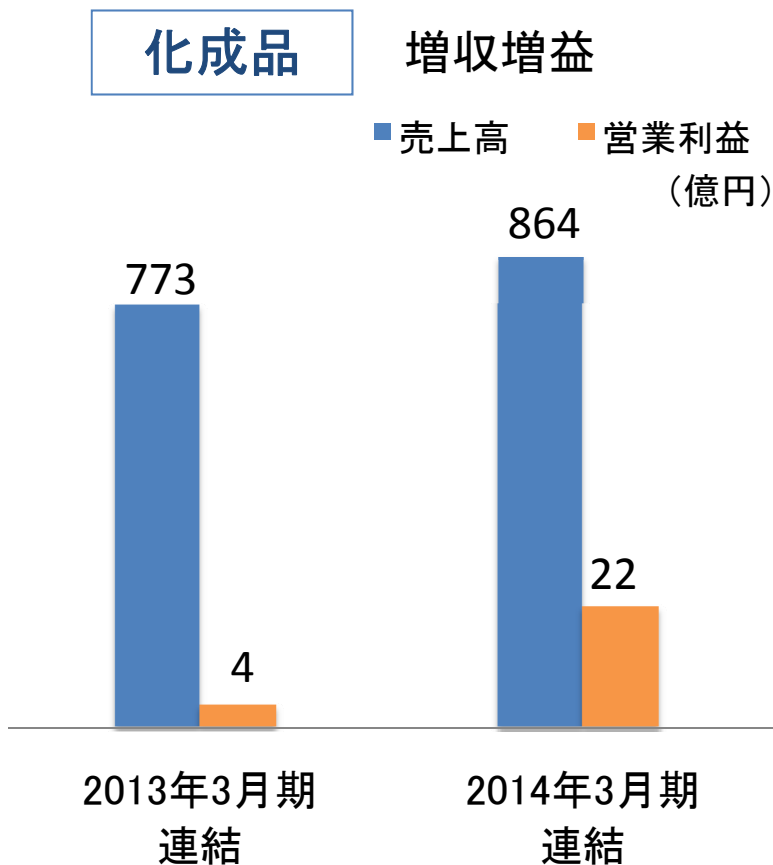
連 結



# 11. フリー・キャッシュフロー推移 連 結



## 12. セグメント別売上高／営業利益（前期比）



### 定性情報

#### （塩ビモノマー）

- ・前期に発生したプラントトラブル解消による販売数量の回復
- ・円安による輸出価格の上昇

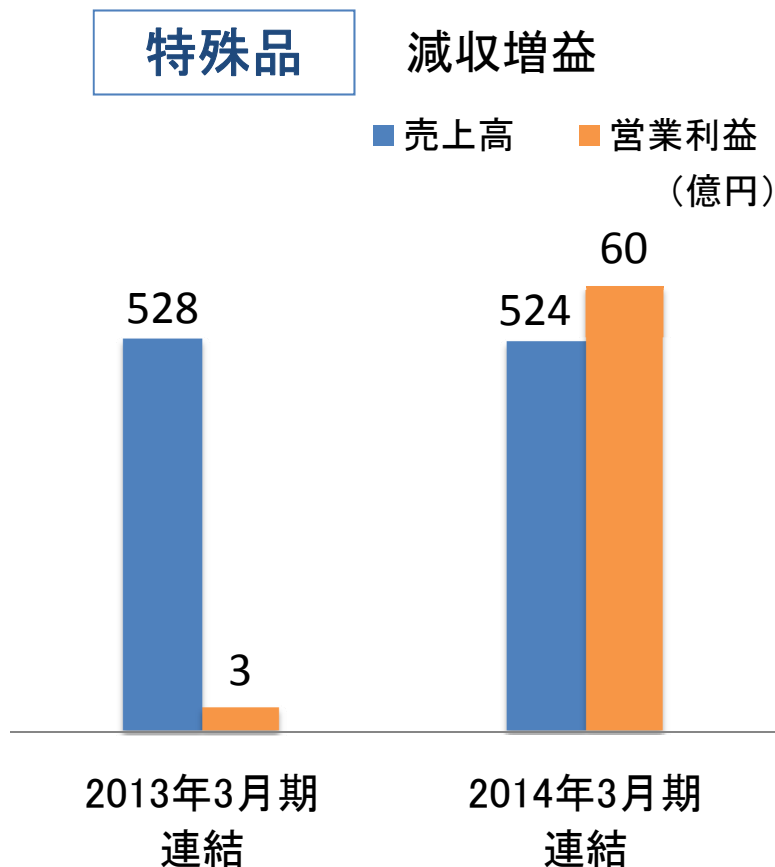
#### （苛性ソーダ）

- ・上記塩ビモノマープラントトラブル解消に伴う電解プラントの稼働率改善による国内販売数量の回復

#### （塩ビ樹脂）

- ・販売価格の是正
- ・国産ナフサ価格上昇に伴う原料コストの増加

## 12. セグメント別売上高／営業利益（前期比）



### 定性情報

#### （多結晶シリコン）

- ・半導体向けは、サプライチェーンにおける価格低迷により減収
- ・太陽電池向けは、供給過剰による市況低迷が続く中、利益重視の販売戦略により販売数量減
- ・販売構成差及び円安による平均販売価格の改善

#### （乾式シリカ、電子工業用高純度薬品）

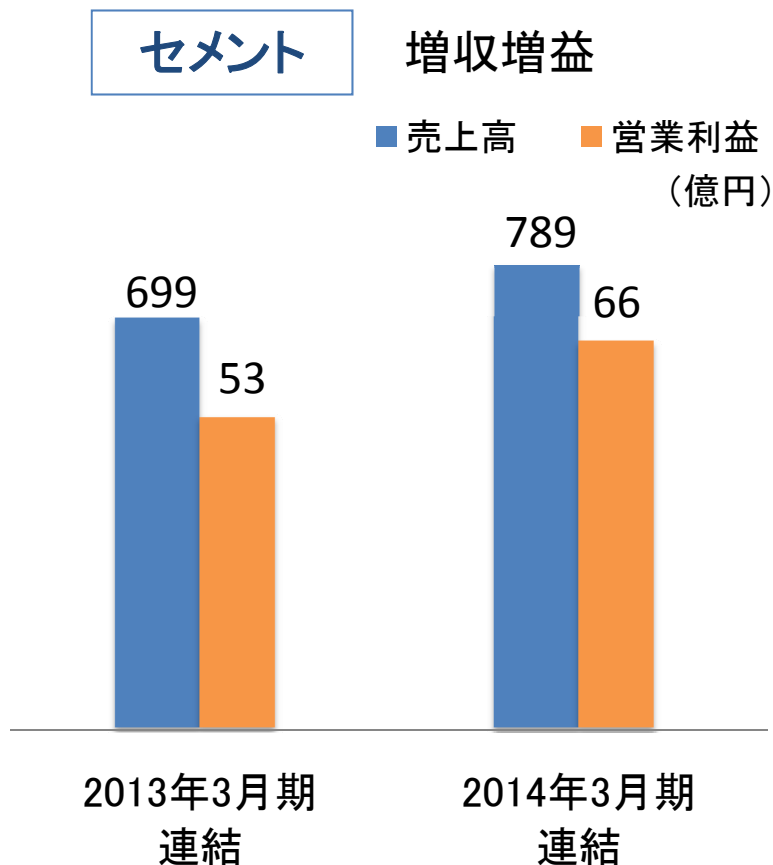
- ・販売価格の是正
- ・円安による輸出価格の上昇

#### （窒化アルミニウム）

- ・半導体市場の回復に伴う販売数量増



## 12. セグメント別売上高／営業利益（前期比）



### 定性情報

#### (セメント)

- ・国内需要の回復に伴う、販売数量の増加
- ・Tokuyama Nouvelle Calédonie S.A.を子会社化したことによる増収

#### (資源環境事業)

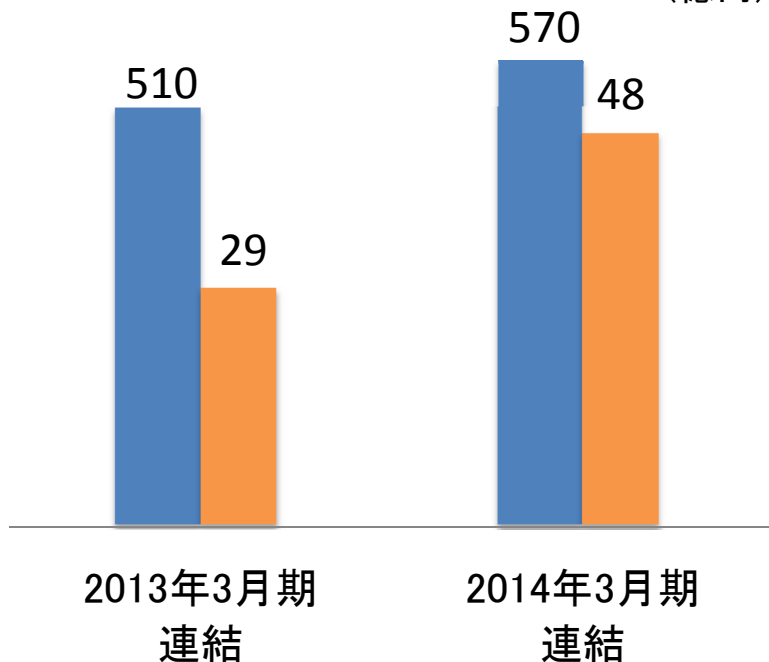
- ・セメント生産量増加に伴う廃棄物受入量の増加

## 12. セグメント別売上高／営業利益（前期比）

### ライフアメニティー

### 増収増益

■ 売上高 ■ 営業利益  
(億円)



### 定性情報

(プラスチックレンズ関連材料)

- ・2011年に発生したタイ洪水によるサプライチェーンへのダメージ解消により販売数量増

(ポリオレフィンフィルム)

- ・製品拡販による販売数量増
- ・原料価格上昇に対応した販売価格の是正

(歯科器材)

- ・海外向け製品拡販による販売数量増
- ・円安による輸出価格の上昇

(樹脂サッシ)

- ・住宅着工件数回復に伴う販売数量増
- ・事業再構築による損益改善

4 補足資料

# 13. セグメント別業績予想(上期・下期) (予想の前期比)

(億円)

	2014年3月期 (実績)						2015年3月期 (予想)					
	上期		下期		通期		上期		下期		通期	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
化成品	415	7	448	14	864	22	440	20	475	20	915	40
特殊品	234	15	290	44	524	60	260	10	345	20	605	30
セメント	364	27	425	39	789	66	400	25	410	30	810	55
ライフアメニティー	271	20	298	28	570	48	295	20	285	20	580	40
その他	232	21	240	20	472	41	245	25	250	25	495	50
計	1,518	93	1,703	146	3,222	240	1,640	100	1,765	115	3,405	215
セグメント間 消去・ 全社費用	△168	△15	△180	△22	△349	△37	△180	△25	△195	△25	△375	△50
連結決算	1,350	78	1,522	124	2,873	202	1,460	75	1,570	90	3,030	165

(注)各事業セグメントの売上高・営業利益にはセグメント間取引を含む

# 14. 100周年ビジョンにおける事業カテゴリ

## 事業カテゴリと位置付け

セグメント分類



化成品



セメント



特殊品



ライフアメニティー

### 戦略的成長事業(グローバル、収益拡大型)

#### 成長素材事業

- ・多結晶シリコン
- ・乾式シリカ
- ・シェイパル(窒化アルミニウム)
- ・ICケミカル

#### 成長部材事業

- ・NF(微多孔質フィルム)
- ・ファインケミカル(医薬品原薬・中間体、プラスチックレンズ関連材料)
- ・エイアンドティー(医療診断システム)
- ・トクヤマデンタル(歯科器材)
- ・フィガロ技研(ガスセンサ)

### 収益力強化事業(国内、安定収益型)

#### 基幹事業

- ・セメント
- ・資源環境
- ・ソーダ灰/塩化カルシウム
- ・クロルアルカリ/VCM
- ・ニューオーガニックケミカルズ(IPA)
- ・新第一塩ビ(PVC)など

#### 独立部材事業

- ・サン・トックス(ポリオレフィンフィルム)
- ・エクセルシャノン(樹脂サッシ)

※VCM: Vinyl Chloride Monomer(塩化ビニルモノマー)

※IPA: Isopropyl Alcohol(イソプロピルアルコール)

※PVC: Polyvinyl Chloride(塩化ビニル樹脂)

## 新規事業

#### 4 補足資料

## 15. 主要グループ会社

	会社名	事業内容	資本金 (百万円)	出資比率 (%)	売上高 (百万円)	
					13年3月期	14年3月期
①	トクヤマ通商(株)	セメント・生コンクリート、各種建設資材の販売	95	100	21,411	24,102
②	新第一塩ビ(株)	塩化ビニル樹脂の製造販売	2,000	71	19,005	22,240
③	サン・トックス(株)	プラスチックフィルムの製造販売	1,600	100	16,472	18,088
④	(株)トクショウ	生コンクリート、各種建設資材の販売	40	100	9,643	11,016
⑤	関西トクヤマ販売(株)	生コンクリート、各種建設資材の販売	80	100	9,410	10,810
⑥	(株)エイアンドティー(12月決算)	臨床診断分析機器、試薬及び関連システムの販売	578	40	8,663	9,221
⑦	(株)エクセルシャノン	プラスチックサッシの製造販売	495	100	6,382	7,450
⑧	徳山化工(浙江)(有) (12月決算)	乾式シリカ、TCS、STCの製造販売	351.2 百万円	100	3,493	4,994
⑨	フィガロ技研(株)	ガスセンサ素子及び応用製品の製造販売	99	100	4,433	4,905

# 本資料に関するご注意

本資料は情報提供を目的とするものであり、何らかの勧誘を目的とするものではありません。

本資料は現時点で入手可能な情報に基づき作成したものでありますが、不確実性を含んでおり、当社はその正確性・完全性に関する責任を負いません。

本資料に記載されている見通しや目標数値等に全面的に依存して投資判断を下すことによって生じるいかなる損失に対しても、当社は責任を負いません。

Chemistry with a heart

**TOKUYAMA**

